物流・ロジスティクスにおける

人材育成支援ガイド2023

―人材育成は、企業の盛衰を決める最大の経営戦略―

人的資本経営

- 人的資本経営（人材を「資本」として捉え、その価値を最大限に引き出すことで、中長期的な企業価値向上につなげる経営）に注目が集まっています。
- 詳しくは4～5ページをご覧ください。

公益社団法人
日本ロジスティクス システム協会
JAPAN INSTITUTE OF LOGISTICS SYSTEMS

目　次

◆日本ロジスティクスシステム協会は、人材育成のお手伝いをします …… 3

◆人材育成支援のヒント …… 4～19

人的資本経営…… 4～5
領域区分…… 6～7
人材育成の進め方…… 8～9
人材育成モデルイメージ…… 10～15
SCM（サプライチェーンマネジメント）プログラム …… 16～17
グローバル人材育成プログラム…… 18
物流現場改善活動に取り組もう！…… 19

◆日本ロジスティクスシステム協会の資格制度・コース…… 20～27

ロジスティクス経営士資格認定講座…… 22
物流技術管理士資格認定講座…… 23
物流技術管理士補資格認定コース…… 24
ロジスティクス基礎講座…… 24
国際物流管理士資格認定講座…… 25
物流現場改善士資格認定講座…… 26
ストラテジックSCM コース …… 27

◆セミナー …… 28～38

2023年度開催予定セミナー 一覧…… 28～29
セミナーMAP …… 30
各種セミナーのご案内…… 31～38

◆物流教育DVD …… 39

◆社内教育・コンサルティング・通信教育 …… 40

◆人材育成のための支援ツール（手引書・診断ツール）…… 41

◆企業事例から学ぶ …… 42～45

先進事例から学ぶ（講演会・研究会など）…… 42～43
物流改善事例から学ぶ（改善事例発表会など）…… 44
物流施設を見学して学ぶ…… 45

◆最新の調査結果より学ぶ …… 45

◆入会のご案内…… 45

◆オンライン事業へのご参加にあたり…… 46

◆セミナー・講座・講演会等集合型事業開催における新型コロナウイルス感染リスクの低減対策について … 47

◆ビジネス・キャリア検定試験・ロジスティクス分野（ロジ検定）…… 48

◆お問合わせ・資料請求 …… 49

公益社団法人 日本ロジスティクスシステム協会は
人材育成のお手伝いをします

公益社団法人日本ロジスティクスシステム協会（JILS）は、ロジスティクスのナショナルセンター（ロジスティクス専門機関）として、 企業の生産性向上に寄与するとともに、多くの企業の連携・協働によって社会共有価値を創出し、持続可能な発展を目指します!!

JILSのミッション	ロジスティクスの高度化と普及推進を通じた、わが国産業界の発展と国民生活の向上、国際社会への貢献
JILSの活動領域	○ロジスティクスに関する調査・研究　○ロジスティクスシステムの普及・提言活動 ○体系的な人材教育の実施　○海外関係機関との情報交流　など

産業界が抱えるさまざまな課題

ロジスティクス高度化へのステップ

1 物流レベルでの対応
物流・ロジスティクス部門における業務改善

2 ロジスティクスレベルでの対応
企画・開発、調達・購買、生産、営業・販売部門との連携による取り組み

3 サプライチェーンレベルでの対応
原材料の調達先から最終顧客まで含めた連携による取り組み

企業価値向上のための JILSが提供する課題解決の場

会員メンバーとの情報交流、ヒューマンネットワークの構築
テーマ別／業界別研究会
・食品ロジスティクス研究会　・ロジスティクスシステム研究会　・物流子会社懇話会　など

経営戦略や最新のロジスティクス高度化事例などの情報収集
講演会
・ロジスティクス全国大会　・ロジスティクス関西大会
・中部ロジスティクス講演会　・九州ロジスティクス講演会　など

調査結果やデータベースの活用による自社課題の分析・把握
調査／研究
・物流コスト調査　・ロジスティクス経営指標調査　など

ロジスティクスの専門知識やマネジメント技術の習得
資格認定講座／テーマ別セミナー
・物流技術管理士資格認定講座　・ロジスティクス経営士資格認定講座　など

経営の効率化に向けたロジスティクス改革の推進
企業別研修／コンサルティング
≪企業の個別ニーズに対応したオーダーメイドの教育プログラム≫

優れたロジスティクス活動の顕彰
表彰制度
・ロジスティクス大賞　・物流改善賞

ロジスティクスに関する最新の機器・システム・サービス等を広く産業界にPR
展示会事業
・国際物流総合展　・ロジスティクスソリューションフェア

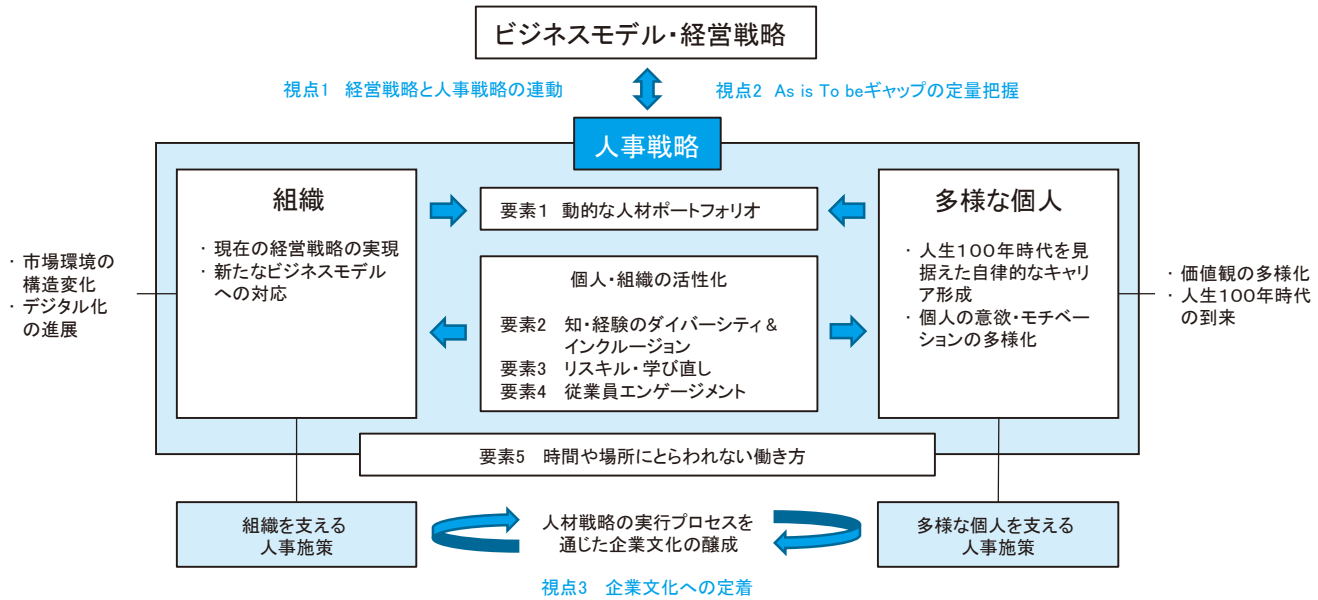
人的資本経営の実践

●背景
- 経済成長を牽引するファクターが有形資産から無形資産へ移行。
- 特に人的資本は企業価値を生み出す原動力。
- 投資家からの人的資本の開示要求（米国、EUにおける情報開示の義務化）。

●人的資本経営とは
- 「人」を付加価値を生み出す資本と捉え、積極的に投資をし、従業員の育成・成長を図る（価値を最大限に引き出す）ことにより、企業価値の向上、企業競争力の強化を目指す。

●ポイント
- 経営戦略と人材戦略の連動がより一層重要になる。
- 自社の人的資源の現状把握、課題の明確化（可視化）を行い、対策としての人への投資が必要になる。
- ステークホルダーとの関係性構築に向けた情報開示が求められる（上場企業）。

人材戦略に求められる3つの視点、5つの要素（伊藤レポート2.0より）



3つの視点　5つの要素	主な取り組みの例示
視点1　経営戦略と人事戦略の連動	□人材戦略の策定と実行を担う責任者（CHRO）の設置・育成　□経営戦略実現の障害となる人材面の課題の抽出と整理　□KPIの設定と設定の背景・理由の説明　□人事部門と事業部門の役割の明確化　□人事部門のケイパビリティ向上　□経営人材選抜・リーダーシップ開発
視点2　As is To be ギャップの定量把握	□人事関連情報の整備・集計分析　□KPIの設定・一覧化　□目標達成期間の設定　□改善に向けた課題の抽出
視点3　企業文化への定着	□企業理念、企業の存在意義、企業文化の再考と定義付け　□重視する行動や姿勢の社員への浸透　□CEO・CHROと社員の対話の場の設定
要素1　動的な人材ポートフォリオ計画の策定と運用	□将来の事業構想を踏まえた中期的な人材ポートフォリオの策定とギャップ分析　□人材の再配置　□不足する人材確保戦略の検討　□学生の採用　□専門人材（博士等）の採用　□退職者との持続的な関係構築
要素2　知・経験のダイバーシティ&インクルージョン	□キャリア採用や外国人の比率・定着・能力発揮のモニタリング　□課長やマネージャーの組織運営能力の向上　□マネジメント方針の共有
要素3　リスキル・学び直しの促進	□組織として不足しているスキル・専門性の特定　□社内外からのキーパーソンの登用　□キーパーソンによるスキル伝播（後継者の計画的育成）　□リスキルできる機会の提供　□リスキルと処遇や報酬の連動　□社外での学習機会の提供（サバティカル休暇、留学等）　□社内起業等の支援
要素4　従業員エンゲージメントを高める	□エンゲージメントレベルの把握　□コミュニケーション担当者の決定・フォローアップ　□社員が保有するスキル、経験、成果の整理　□個人の成長に資するアサインメント　□公募制による自律的なキャリア形成　□副業・兼業の推進　□健康経営への投資・Well-beingの視点の取り組み
要素5　時間や場所にとらわれない働き方を進める	□業務デジタル化　□社内決裁の簡素化・デジタル化　□サテライトオフィスの整備　□マネジメント見直し　□リアルワークとリモートワークの組み合わせ　□コミュニケーション機会の確保

出所　経済産業省「人的資本経営の実現に向け　た検討会報告書－人材版伊藤レポート2.0－」（2022年5月）を基にJILSが作成

人的資本の可視化、開示について

人的資本可視化指針（内閣官房）
- 人的資本の情報開示への対応の方向性について包括的に整理した手引き。
- 経営戦略と人的資本への投資や人材戦略の関係性を、４つの要素（①ガバナンス、②戦略、③リスク管理、④指標と目標）に沿って開示することが効果的、効率的としている。

ISO 30414
- 人的資本の情報開示に関する国際的なガイドライン
- 人的資本を定性的、定量的に把握（11の領域と58の測定基準）し、人材戦略への影響を数値化し、経営の持続可能性を支援。

※貴社の資格取得情報を確認したい場合は、当協会までお問い合わせください。
お問い合わせ先については、49ページをご参照ください。

人的資本経営に関する経済産業省の取り組み
https://www.meti.go.jp/policy/economy/jinteki_shihon/index.html

持続的な企業価値の向上と人的資本に関する研究会

- 経営環境の変化に応じた人材戦略の構築を促し、中長期的な企業価値の向上につなげる観点から、人材戦略に関する経営陣、取締役、投資家それぞれの役割や、投資家との対話の在り方、関係者の行動変容を促す方策等を検討するため、2020年１月から、研究会を開催。
- 報告書（人材版伊藤レポート）を、2020年９月に公表。

人材版伊藤レポート

人的資本経営に関する調査

- 日本企業の人的資本経営に関する現状を把握することを目的として実施。
- 企業のCEO・CHROをはじめとする経営陣が自社の人的資本経営の実態を確認し、振り返ることができるよう、個社別のレポートも作成し、参加企業全体と各社の現状を対比することができる。

人的資本経営の実現に向けた検討会

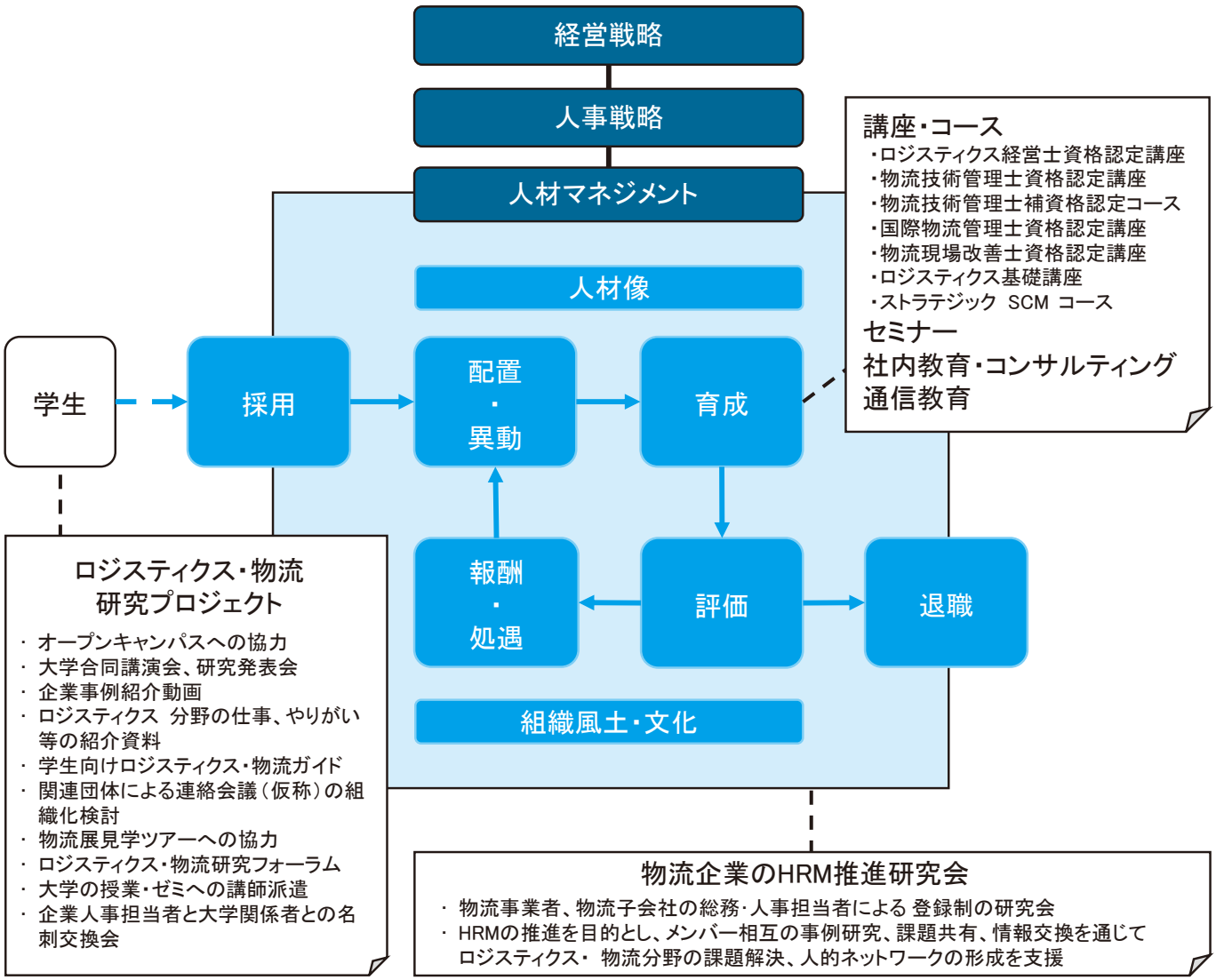
- 持続的な企業価値の向上に向けて、経営戦略と連動した人材戦略の実践について検討会で議論。
- 報告書と実践事例集と併せた「人材版伊藤レポート2.0」を2022年５月に公表。

人材版伊藤レポート2.0　実践事例集

人的資本経営コンソーシアム

- 「人への投資」に積極的な日本企業に世界中から資金が集まり、次なる成長へと繋がることを期待。
- 総会の下に、企画委員会、実践分科会及び開示分科会が設置され、人的資本経営の実践に関する先進事例の共有、企業間協力に向けた議論、効果的な情報開示の検討が進められる予定。
- 会員：320法人（2022年8月25日現在）

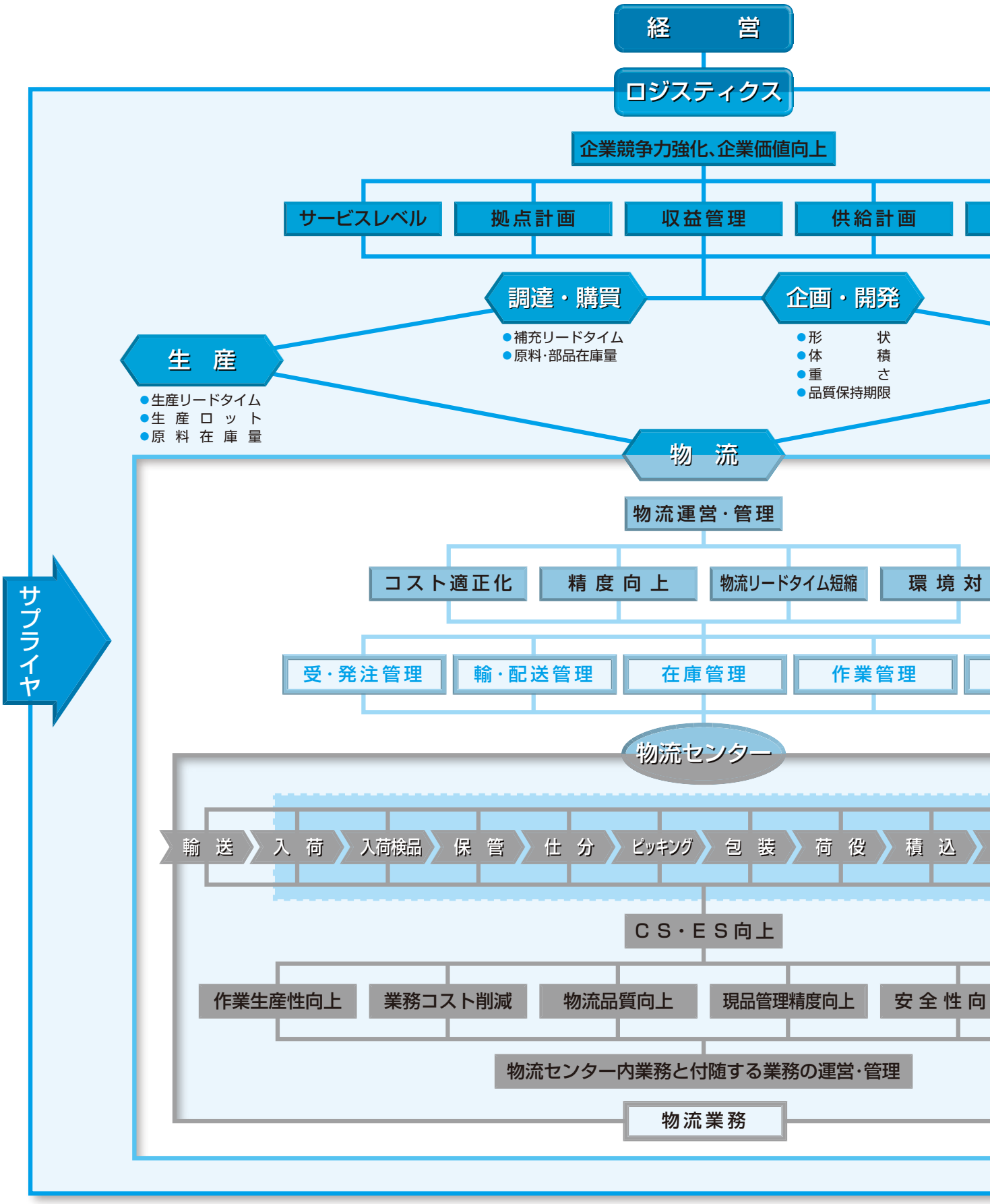
JILSの取り組み

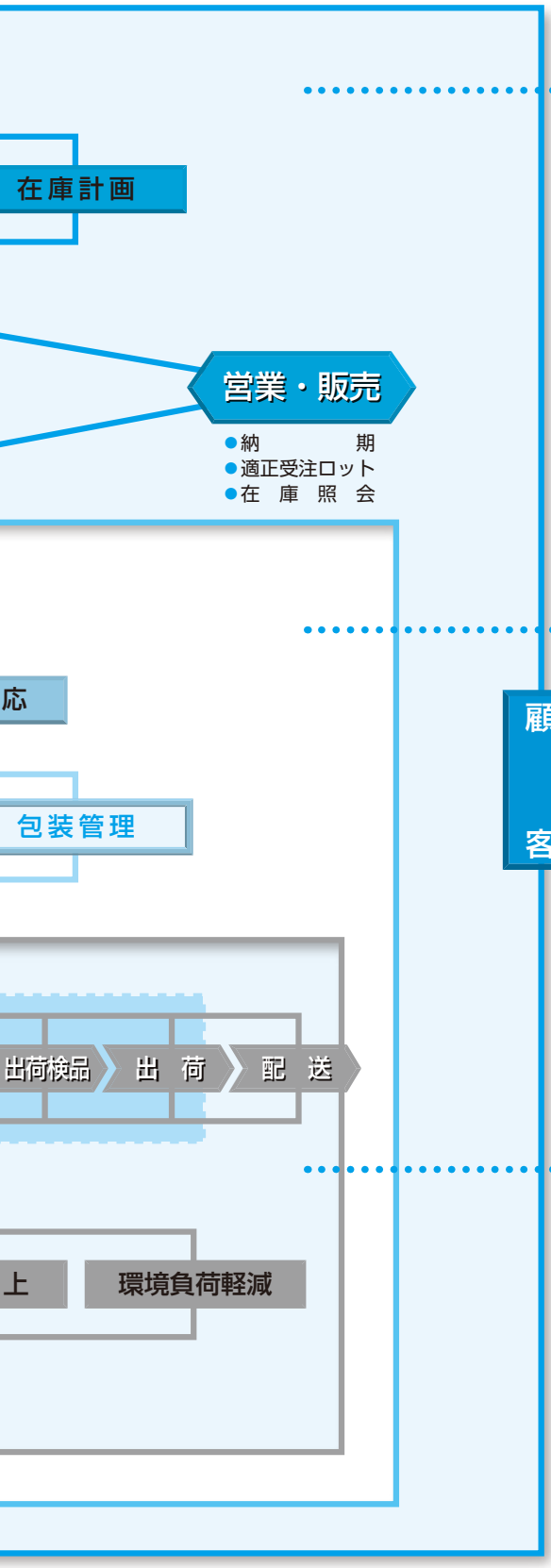


領域区分

「ロジスティクス」「物流」「物流業務」の３領域に区分して、「ロジスティクス」を構成する１つの業務を「物流」とし、「物流」のなかで物流センター内業務と付随する業務を「物流業務」としています。

「物流現場改善推進のための手引書（改訂版）」では「物流業務」の改善を「物流現場改善」と位置づけています。





【領域の区分】

ロジスティクス	
対象範囲	企画・開発、生産、物流、営業、販売を統合した範囲が対象
対象業務	企画・開発、調達・購買、生産、物流、営業・販売
関係部門	部門横断（パートナー企業を含む）
役　　割	サービスレベル、拠点計画、収益管理、供給計画、在庫計画　など

物　　流	
対象範囲	複数の物流業務および工程を統合した範囲が対象
対象業務	受・発注管理、輸・配送管理、在庫管理、作業管理、包装管理
関係部門	物流部門
役　　割	コスト適正化、精度向上、物流リードタイム短縮、環境対応　など

物流業務	
対象範囲	ひとつの作業所（現場）で完結する、小集団が対象
対象業務	輸送、入荷、検品、保管、仕分、ピッキング、包装、荷役、積付、出荷、配送
関係部門	物流センター
役　　割	作業生産性向上、業務コスト削減、物流品質向上、現品管理精度向上、安全性向上、環境負荷軽減　など

人材育成の進め方 ～人材育成・教育訓練を始めよう！続けよう！～

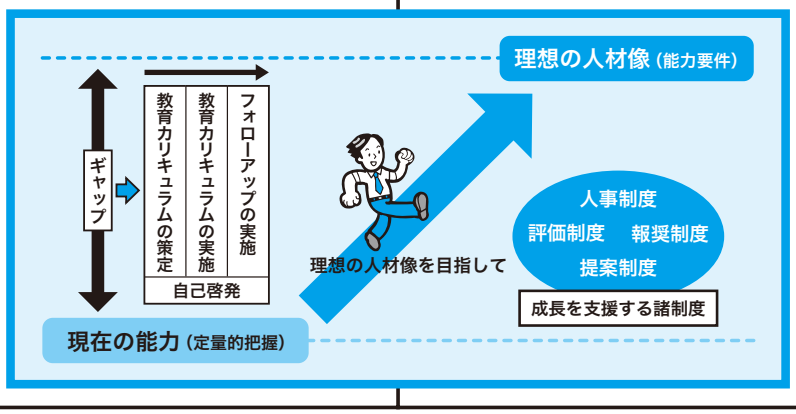
アプローチ・実施手順

1 ステップ1 組織の現状把握

現状把握

- 実施しようとする従業員の人材育成が、自社の経営理念、経営戦略、人材育成計画と連動しているかを確認することが大切です。
- 「現状把握の仕方がわからない」、「業務が忙しくて把握する時間がない」、「詳細には把握できていないがレベル感は把握している」等という企業も多いと思われますが、従業員の能力の「見える化」は大切です。
- 自社に合った方法で、現状把握を行ってください。

＜現状把握方法＞
①評価シートの作成・活用
②アンケートの実施
③従業員面談の実施
④社内試験の実施
⑤社外の試験の活用
⑥日常業務の観察
⑦個人・職場の業績（経済的効果）
⑧外部機関へ依頼



2 ステップ2 「理想の人材像」の策定とギャップの把握

理想の人材像・能力要件の策定

- 「理想の人材像（目標レベル）」を、①企業理念や経営戦略に連動した形で設定、もしくは、②従業員の現況の能力を把握し、不足している能力を補えた状態を目標レベルとして設定してください。
- 理想の人材像の「能力要件」「能力要件定義書」を策定してください。

ギャップの把握

- 従業員の現況の能力レベルを把握し、能力要件（目標レベル）を策定すると、その能力レベルに差（ギャップ）が存在することが見えてきます。
- この差が教育課題となります。この差が生じている原因を究明することが重要になります。

3 ステップ3 教育カリキュラムの策定

必要な知識・スキルの整理

- 能力要件に基づき、領域別（業務・階層等）に求められる知識やスキルを整理し、体系化してください。

カリキュラムの策定

- 従業員の現状の能力と、能力要件（目標レベル）とを比較することにより導き出される知識や技法などを整理し、これらの習得に必要な教育カリキュラムを策定します。

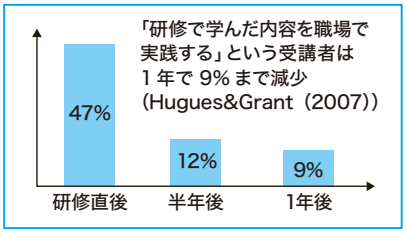
＜カリキュラム策定のポイント＞
①日常業務の観察、アンケートの実施、従業員面談等による必要な知識や技法の発見
②外部機関が実施しているセミナーや研修メニューを参照
③外部機関へ依頼

教育訓練方法の選択

- 教育訓練方法には、主にOJT（On the Job Training）と、Off－JT（Off the Job Training）があります。実施する際のメリット・デメリットを考慮し、使い分けて実施してください。

本支援ガイドに記載されている、資格組み合わせてご活用ください。

研修で学んだことを現場で実践し、成果をあげるために



研修に関するある調査研究によると、外部研修で学んだ内容を職場で実践するという受講者は研修直後47%、半年後12%、さらに1年後には9%まで、減少するといわれています。

時間が経つにつれ、実践で使われなくなる。

	実際に使用されている項目	本来、影響をあたえる項目
1	研修中 × 講　師	研修前 × 職　場
2	研修前 × 講　師	研修前 × 講　師
3	研修中 × 学習者	研修後 × 職　場
4	研修後 × 学習者	研修中 × 講　師
5	研修前 × 職　場	研修中 × 学習者
6	研修中 × 職　場	研修後 × 学習者
7	研修後 × 講　師	研修前 × 学習者
8	研修前 × 学習者	研修中 × 職　場
9	研修後 × 職　場	研修後 × 講　師

海外の研究によると、時間軸「研修前・研修中・研修後」、役割者「職場、学習者、講師」を3x3のマトリックスで評価した場合、「研修前後の職場の対応」が行動変容を促す影響度が高い、という結果があります。

出所：Broad & Newstrom（1992）「転移マトリックス（転移促進策の影響度）」

研修前後の職場の影響度が高い。

研修で学んだことを実践するためのポイント

- 従業員が行動に移す＝行動変容
- 行動変容を促すためにも、研修前後の職場（上司）のフォローが必要不可欠

4 ステップ4 教育カリキュラムの実施

OJT 実施のポイント

- 日常業務の中でOJTが効率的に行われるためには、環境を整備する必要があります。

＜実施時のポイント＞

①基本的方針（目的・目標）や、OJTの考え方を周知させる。
②実施手順を周知させる。
③指導にあたる従業員（指導者）への教育訓練を実施する。
④円滑に実施できるよう、ツール整備（例：マニュアル作成）を行う。

Off－JT 実施のポイント

- 教育訓練には様々な方法（集合研修、通信教育、e-ラーニング等）があり、それぞれの特徴（メリット・デメリット）を理解し、組合せながら効果を最大限にすることが重要です。
- 自社内に社内講師がいない場合は、外部の教育機関や外部講師を活用してください。

＜実施時のポイント＞

①研修参加者の動機づけや、参加者が実施前に準備ができるように、事前に開催通知や呼びかけを行う。
②予算面の制約を考慮しながら、時間的、空間的、環境的要素を配慮し、教育研修の効果が期待できる研修施設を選定する。
③研修施設担当者や講師との打合せを密に行う。
④テキストや教材を準備する。
⑤備品（プロジェクター、ホワイトボード等）を準備する。

認定講座、セミナーなどのメニューを

5 ステップ5 教育カリキュラムの評価とフォローアップ

評価

- 教育訓練の後に理解度や目標達成度等について評価する必要があります。
- 教育訓練を実施した直後に、その効果が現れることは期待できません。そのため、教育訓練終了後、ある一定期間を経過してから事後評価を実施してください。
- 事後評価の指標としては、「理解度」、「実践度」、「貢献度」等が考えられます。

＜事後評価方法＞

①評価シートの作成・活用
②アンケートの実施
③従業員面談の実施
④社内試験の実施
⑤社外の試験の活用
⑥日常業務の観察
⑦個人・職場の業績（経済的効果）
⑧外部機関へ依頼

教育カリキュラム等の見直し

- 従業員の能力評価だけではなく、教育カリキュラム、講師、教材等についても評価や見直しを行ってください。

フォローアップの実施

- 従業員が教育訓練の内容を十分に理解し、それを業務で活かすことができているのかを、一度振り返って再確認する必要があります。

6 ステップ6 従業員の成長を支援する体制整備

教育訓練の継続的実施

- 教育訓練を通じて、従業員の「やる気」を喚起させ、日々の成長を実感できるようにすることが大切です。また、従業員の成長とともに目標レベルが上がり、新たな課題が発生します。
- そのため「教育予算」を継続的に確保し、教育訓練を実施することによって解決する必要があります。

諸制度の構築

- 従業員を継続的に支援するための諸制度を構築することが重要になります。これにより社内・職場が活性化され、従業員のモチベーション向上が図られます。さらには、企業全体に教育する風土が構築されることにも繋がります。

＜例＞

①自己啓発への援助制度の構築
②評価制度、表彰制度・昇給・昇格制度、提案制度等の構築 等

教育部門・教育スタッフの配置

- 教育訓練が継続的、効果的に行われるために、教育部門・教育スタッフを配置することが重要です。専属の部門やスタッフを配置することが困難な場合は、定期的に人材育成や教育訓練について検討を行う機会を設けてください。

～やりっぱなし研修になっていませんか？～

研修前にすること

1）上司（職場）と従業員の面談の実施。
→何を学んでほしいかのすり合わせを必ず実施。

2）研修に関する案内の工夫（人材育成担当者および上司）。
→現場を離れて教育訓練に参加することを強く発信。

3）事前学習を行う仕掛けづくり。
→上司（職場）は従業員に対し事前学習ができる機会を提供。

4）職場の環境づくり。
→学習者と上司がコミュニケーションを取りやすい環境を用意することが重要。

研修後にすること

1）上司と学習者の面談の実施
　何を学んだか、どのように業務で活用したいかを確認。

2）機会の提供
　学習したことを活かせる業務を提供。

3）実践のための支援
　学んだことを活かして実践するためのコーチングやフィードバック。

研修の前段階から学習者、上司が「実践し、成果をあげる」というゴールを見据え、共有することが重要。

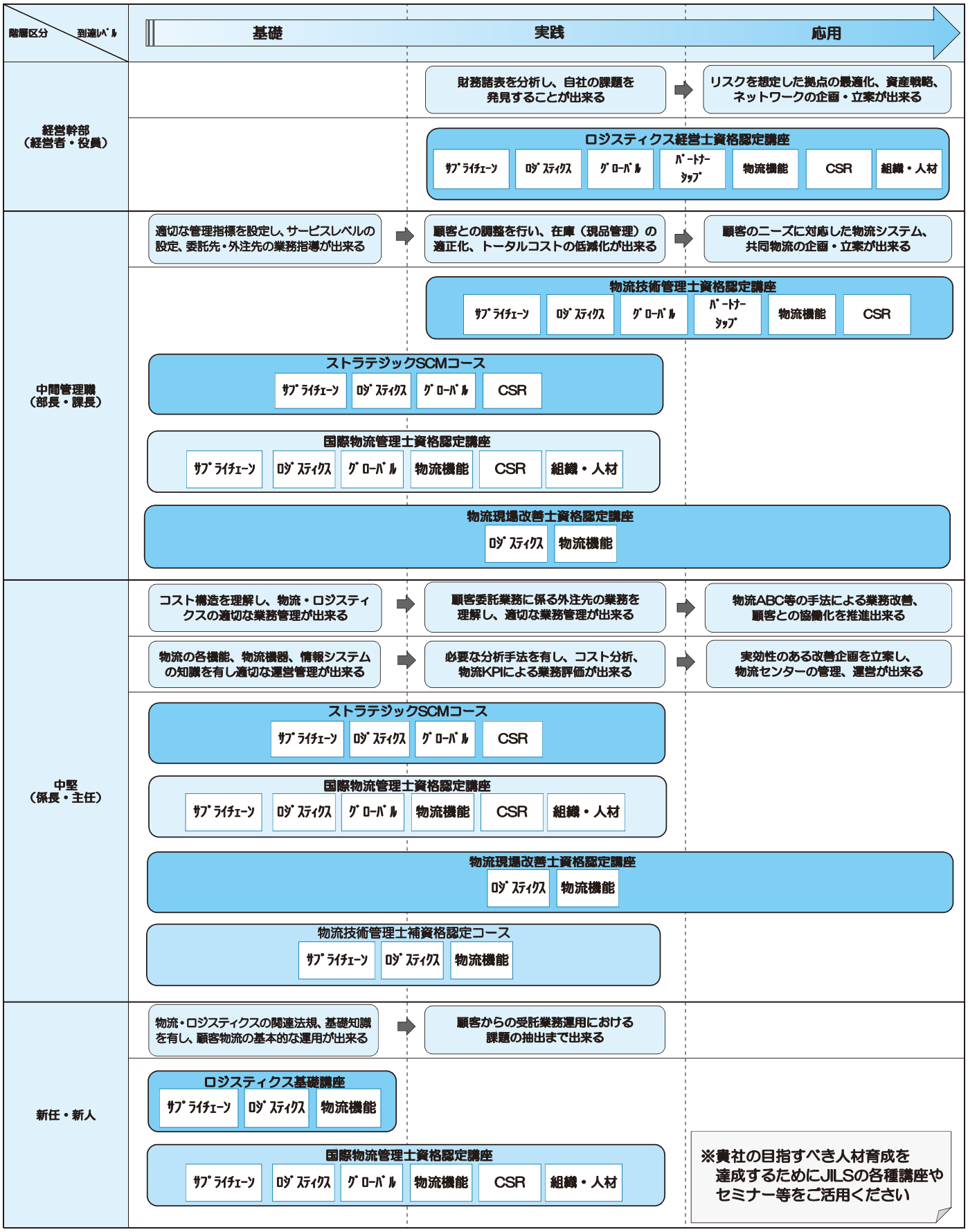
ﾛｼﾞｽﾃｨｸｽ⇒主要領域

人材育成モデルイメージ（荷主企業向け）

階層区分＼到達レベル	基礎	実践	応用
経営幹部（経営者・役員）		財務諸表を分析し、自社の課題を発見することが出来る	リスクを想定した拠点の最適化、資産戦略、ネットワークの企画・立案が出来る
		ロジスティクス経営士資格認定講座（ｻﾌﾟﾗｲﾁｪｰﾝ／ﾛｼﾞｽﾃｨｸｽ／ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ／ﾊﾟｰﾄﾅｰｼｯﾌﾟ／物流機能／CSR／組織・人材）	
中間管理職（部長・課長）	適切な管理指標を設定し、サービスレベルの設定、委託先・外注先の業務指導が出来る	部門間の調整を行い、在庫の適正化、トータルコストの低減化が出来る	社内外のニーズに対応した物流システム、共同物流の企画・立案が出来る
		物流技術管理士資格認定講座（ｻﾌﾟﾗｲﾁｪｰﾝ／ﾛｼﾞｽﾃｨｸｽ／ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ／ﾊﾟｰﾄﾅｰｼｯﾌﾟ／物流機能／CSR）	
		ストラテジックSCMコース（ｻﾌﾟﾗｲﾁｪｰﾝ／ﾛｼﾞｽﾃｨｸｽ／ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ／CSR）	
		国際物流管理士資格認定講座（ｻﾌﾟﾗｲﾁｪｰﾝ／ﾛｼﾞｽﾃｨｸｽ／ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ／物流機能／CSR／組織・人材）	
		物流現場改善士資格認定講座（ﾛｼﾞｽﾃｨｸｽ／物流機能）	
中堅（係長・主任）	コスト構造を理解し、物流・ロジスティクスの適切な業務管理が出来る	委託先、外注先の業務を理解し、適切な業務管理が出来る	物流ABC等の手法による業務改善、委託先との協働化を推進出来る
	物流の各機能、物流機器、情報システムの知識を有し適切な運営管理が出来る	必要な分析手法を有し、コスト分析、適正在庫の算出が出来る	実効性のある改善企画を立案し、物流センターの管理、運営が出来る
		ストラテジックSCMコース（ｻﾌﾟﾗｲﾁｪｰﾝ／ﾛｼﾞｽﾃｨｸｽ／ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ／CSR）	
		国際物流管理士資格認定講座（ｻﾌﾟﾗｲﾁｪｰﾝ／ﾛｼﾞｽﾃｨｸｽ／ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ／物流機能／CSR／組織・人材）	
		物流現場改善士資格認定講座（ﾛｼﾞｽﾃｨｸｽ／物流機能）	
		物流技術管理士補資格認定コース（ｻﾌﾟﾗｲﾁｪｰﾝ／ﾛｼﾞｽﾃｨｸｽ／物流機能）	
新任・新人	物流・ロジスティクスの関連法規、基礎知識を有し、自社物流の基本的な運用が出来る	自社業務の運用における課題の抽出まで出来る	
	ロジスティクス基礎講座（ｻﾌﾟﾗｲﾁｪｰﾝ／ﾛｼﾞｽﾃｨｸｽ／物流機能）		
	国際物流管理士資格認定講座（ｻﾌﾟﾗｲﾁｪｰﾝ／ﾛｼﾞｽﾃｨｸｽ／ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ／物流機能／CSR／組織・人材）		※貴社の目指すべき人材育成を達成するためにJILSの各種講座やセミナー等をご活用ください

ﾛｼﾞｽﾃｨｸｽ⇒主要領域

人材育成モデルイメージ（物流企業向け）



荷主企業

物流・ロジスティクス・サプライチェーンマネジメントに関する「業務を遂行するために習得すべき主な知識・技術」の一例を示しています。
貴社にとって必要なテーマ、習得が望ましいと思われる知識・技術について選定のうえ、人材育成・教育にお役立てください。

階層区分	役割	サプライチェーン	ロジスティクス	グローバル
経営幹部（経営者・役員）	● 経営計画の立案・承認 ● 需要に応じて、調達・生産・販売・物流や回収・廃棄等の活動を同期化させる仕組みを構築する（他部門との連携強化）。 ● 流通在庫の最少化を図る。 ● 戦略的パートナーの選定と連携 ● SCM やロジスティクス戦略の立案能力 ● SCM の評価 ● 新任の経営幹部に必要な知識や能力の修得	・資産戦略（在庫、アセット等） ・商品政策/商品化計画 ・経営指標［ROA *1・CCC *2等］管理 ・収支損益管理 ・S&OP（*3）	・ロジスティクスネットワーク設計/構築 ・荷主間連携 ・サービス戦略 ・拠点の最適化（統廃合/新設）	・グローバルサプライチェーン戦略 ・グローバルネットワーク設計/構築 ・グローバルパートナー選定 ・海外拠点運営戦略（組織体制構築）
中間管理職（部長課長）	● 経営の視点を常に意識して考える。 ● 顧客の注文に応えられるサービスレベルに適した物流システムの構築（拠点設置等）を行う。 ● 部門間の調整を行い、適正在庫の設定・維持管理を行う。 ● 売上高対物流コスト比率の最少化を図る。	・在庫管理（応用） ・在庫管理システム構築 ・供給計画（応用）（PSI *4） ・需要計画/予測 ・SWOT(*5)分析 ・外部環境分析（ミクロ、マクロ） ・AI・IoT ・ブロックチェーン	・共同物流構築 ・物流センター企画・設計 ・物流情報システム企画・設計 ・トータル物流コスト改善 ・ロジスティクス KPI 設計 ・サービスレベル設定 ・最適化手法（OR*7） ・物流コスト管理（応用）	・現地物流/ビジネス環境分析 ・現地委託先管理 ・関連法規 ・現地法人の人材マネジメント ・グローバル 3PL
中堅（係長）	● 物流・ロジスティクスに関する専門知識や管理技術を有し、コスト適正化や効率化に向けた施策の立案及び推進をする。 ● 物流・ロジスティクスに関する定量的な指標を用いて物流業務を管理する。	・在庫管理（実践） ・供給計画(実践)（PSI *4） ・在庫管理システム ・TOC（*6） ・AI・IoT	・機能別物流コスト改善 ・物流ABC(*8) / ABM(*9) ・改善手法（応用） ・業務標準化 ・物流センター管理（保管・荷役コスト・品質） ・物流コスト管理（実践） ・RPA（*10）	・輸出入業務改善 ・輸出入業務（応用） ・リスクマネジメント ・BCP（*11）
中堅（主任）	● 物流業務に関する管理手法を有し、適切な現場運営管理を行う。 ● 物流現場改善に関する分析手法、改善技法を有し、実効性のある現場改善策を企画する。 ● 問題点や改善効果を定量的に捉え、関係者の理解や協力を得ながら、改善を実行する。	・在庫管理（基礎） ・供給計画(基礎)（PSI *4） ・受発注システム	・改善手法（基礎） ・物流センターの運営/管理（人時生産性・スペース効率） ・物流コスト管理（基礎） ・サービスレベル分析 ・物流情報システム（概要）	・輸出入業務（実践） ・貿易貨物保険
新任・新人	● 物流、ロジスティクスに係る用語を適切に理解する。 ● 物流、ロジスティクスの基礎知識を有し、ロジスティクス全体の中で、担当業務の役割等を理解する。 ● 問題点や改善効果を定量的に捉えられる。	・サプライチェーン概論	・ロジスティクス・物流概論 ・物流センター基本機能 ・製品/商品特性 ・物流業界基礎知識 ・受発注業務	・輸出入業務（基礎） ・輸送システム（海上、航空等）

パートナーシップ	物流機能	CSR(*21)	組織・人材	用語
・戦略(社内・社外) ・戦略的 3PL ・荷主連携		・CSR(*21)経営 ・コンプライアンス経営 ・環境政策 ・SDGs(*24)	・人材採用・育成計画 ・組織設計	1:Return On Asset 2:Cash Conversion Cycle 3:Sales and Operations Planning 4:Procurement/ Production Sales Inventory 5:Strength Weakness Opportunity Threat 6:Theory of Constraints 7:Operations Research 8:Activity Based Costing 9:Activity Based Management 10:Robotic Process Automation 11:Business Continuity Plan 12:Request For Proposal 13:Cyber-Physical System 14:Value Analysis 15:Value Engineering 16:Warehouse Management System 17:Transportation Management System 18:Industrial Engineering 19:Quality Control 20:Quality Cost Delivery Safety Morale 21:Corporate Social Responsibility 22:Robotic Process Auto mation 23:Digital Transformation 24:Sustainable Development Goals
・委託先選定(RFP *12 作成) ・契約条件設定 ・委託先業務管理 ・委託先管理指標設定 ・CPS (*13)	・自動化企画・設計 ・モーダルシフト企画・設計 ・ユニットロードシステム企画・設計 ・包装設計(VA*14/VE*15)と包装技法 ・WMS(*16)企画、選定 ・TMS(*17)企画、選定 ・マテハン企画、選定 ・物流 DX (*23)	・BCP(*11)対策の立案 ・リスクマネジメント(実践/応用) ・コーポレートガバナンス ・内部監査 ・内部統制 ・コンプライアンス ・関連法規(収集/教育)	・組織・人材の能力開発 ・労働力不足対応 ・人材採用、育成計画立案 ・組織、人事マネジメント ・コーチング/チームビルディング ・RPA(*22)	
・委託先との協働化推進 ・委託先業務指導 ・プラットフォーム	・改善手法(応用) (VA/VE) ・分析手法(応用) ・管理手法(実践・応用) ・標準時間設定 ・デジタルデータの解析・評価	・法令順守管理手法 ・リスクマネジメント(基礎) ・環境負荷低減	・人材育成 ・労務管理	
・委託先管理(調整・探索など)	・改善手法(実践)(IE *18、QC *19) ・分析手法(実践) ・管理手法(基礎) (QCDSM*20) ・IoT(コト・モノのデジタル化)	・法令順守運用手順 ・各種保険 ・安全管理	・課題解決(実践/応用)	
・委託先対応 ・委託契約方式	・改善手法(基礎) ・分析手法(基礎) ・業務知識[荷役、輸配送、包装/梱包] ・5S ・マテハン	・関連法規(基礎) ・リスクマネジメント(概論) ・環境概論	・課題解決(基礎)	

物流企業

物流・ロジスティクス・サプライチェーンマネジメントに関する「業務を遂行するために習得すべき主な知識・技術」の一例を示しています。
貴社にとって必要なテーマ、習得が望ましいと思われる知識・技術を選定のうえ、人材育成・教育にお役立てください。

階層区分	役割	3PL/ロジスティクス/サプライチェーン	パートナーシップ	グローバル
経営幹部（経営者・役員）	● 経営計画の立案・承認 ● 顧客の注文に応えられるサービスレベルに適した物流システムの構築（拠点設置等）を行う。 ● 自社の企業価値を高める。 ● 次経営幹部の育成 ● 経営資源（ヒト・モノ・カネ）の強化	・経営指標［ROA *1・CCC *2 等］管理 ・ロジスティクスネットワーク設計/構築 ・SCM 改革 ・拠点の最適化（統廃合/新設） ・共同物流戦略 ・商品企画、開発	・内外作戦略 ・戦略的パートナーシップ ・荷主連携	・グローバルネットワーク設計/構築 ・海外拠点戦略（組織体制構築） ・カントリーリスク管理 ・現地法人設立
中間管理職（部長・課長）	● 経営の視点を常に意識して考える。 ● 課（ライン）の運営ビジョンの策定 ● 物流・ロジスティクスに関する専門知識や管理技術を有し、コスト低減や効率化に向けた施策の立案及び推進をする。 ● 物流・ロジスティクスに関する定量的な指標を用いて物流業務を管理する。	・先端 SCM 動向把握 ・事業/物流特性把握 ・物流センター立上げ ・共同物流推進 ・物流センター設計 ・物流情報システム要件設計 ・ロジスティクス KPI 設定 ・物流センター管理（保管・荷役コスト・品質） ・荷主在庫マネジメントの理解と改善 ・物流コスト管理（応用） ・AI・IoT	・委託先選定（RFP*4 作成） ・契約条件設定 ・委託先管理指標設定 ・委託元協業体制 ・CPS（*5）	・現地物流/ビジネス環境分析 ・現地委託先管理 ・関連法規 ・現地法人の人材マネジメント
中堅（係長）	● 物流業務に関する管理手法を有し、適切な現場運営管理を行う。 ● リーダーの大切さ（なぜ、リーダーが必要なのか？）	・改善手法（実践/応用） ・物流コスト管理（実践） ・生産管理（実践/応用） ・TOC（*3） ・AI・IoT	・委託元管理（調整・連携など） ・委託先業務管理・指導 ・プラットフォーム	・現地法人の収支管理 ・輸出入業務（応用）
中堅（主任）	● 物流現場改善に関する分析手法、改善技法を有し、実効性のある現場改善策を企画する。 ● 問題点や改善効果を定量的に捉え、関係者の理解や協力を得ながら、改善を実行する。	・改善手法（基礎） ・物流センターの運営、管理（人時生産性・スペース効率） ・物流コスト管理（基礎） ・在庫管理（実棚管理） ・物流情報システム（概要） ・生産管理（基礎）	・委託先業務連携/コミュニケーション ・契約交渉	・輸出入業務（実践） ・貿易貨物保険
新任・新人	● 物流、ロジスティクスに係る用語を適切に理解する。 ● 物流、ロジスティクスの基礎知識を有し、ロジスティクス全体の中で、担当業務の役割等を理解する。	・SCM/ロジスティクス/物流概論 ・物流センター基礎知識 ・物流業界知識 ・物流コスト（基礎） ・自社商品特性理解	・顧客対応 ・委託先対応 ・委託契約方式	・グローバルロジスティクス（概論） ・輸出入業務（基礎） ・輸送システム（陸上、海上、航空）

物流機能	CSR(*13)	営業	組織・人材	用語
・資産戦略(拠点、車輌等) ・自社ネットワークの構築	・CSR(*13)経営 ・コーポレートガバナンス ・コンプライアンス経営 ・環境政策 ・BCP(*14)対策立案 ・SDGs(*17)	・マーケティング戦略 ・異業種交流 ・提案営業の仕掛けづくり・展開	・人材採用・育成方針設計 ・組織設計 ・ダイバーシティ経営	1:Return On Asset 2:Cash Conversion Cycle 3:Theory of Constraints 4:Request For Proposal 5:Cyber-Physical System 6:Value Analysis 7:Value Engineering 8:Warehouse Management System 9:Transportation Management System 10:Industrial Engineering 11:Quality Control 12:Quality Cost Delivery Safety Morale 13:Corporate Social Responsibility 14:Business Continuity Plan 15:Robotic Process Automation 16:Digital Transformation 17:Sustainable Development Goals
・自動化企画・設計 ・モーダルシフト企画・設計 ・ユニットロードシステム企画・設計 ・包装設計(VA*6/VE*7)と包装技法 ・WMS(*8)企画、選定 ・TMS(*9)企画、選定 ・マテハン企画、選定 ・物流 DX (*16)	・法令順守の管理方法 ・物流政策のキャッチアップ ・関連法規(収集/教育)	・事業特性分析(荷主企業の業界/組織特性等) ・営業先探索 ・売上目標管理 ・財務諸表/経営指標 ・営業計画の立案、実行 ・営業所マネジメント	・組織・人材の能力開発 ・労働力不足対応 ・人材育成・改善 ・組織、人事マネジメント ・コーチング/チームビルディング ・現場リーダー育成手法 ・コミュニケーション手法 ・メンタルヘルスマネジメント ・RPA(*15)	
・改善手法(応用)(VA/VE) ・分析手法(応用) ・管理手法(実践・応用) ・標準時間設定 デジタル ・見積単価設定 ・荷役稼動管理	・環境指標(CO_2 等)算出手法 ・非正規社員雇用関連法令 ・ISO 認証取得	・新規顧客開拓 ・提案営業(実践/応用)	・労務管理 ・チームリーダー育成 ・非正規社員雇用管理	
・改善手法(実践)(IE *10、QC *11) ・分析手法(実践) ・管理手法(基礎) (QCDSM*12) IoT(コト・モノのデジタル化) ・棚卸業務管理 ・配車管理　・運行管理	・法令遵守運用手順 ・安全管理 ・関連法規(実践) ・各種保険 ・環境概論	・提案営業(基礎) ・物流営業(実践・応用) ・見積書作成	・チームビルディング ・課題解決(実践/応用)	
・改善手法(基礎) ・分析手法(基礎) ・業務知識[荷役、輸配送、包装/梱包] ・5S ・マテハン	・安全対策手順 ・リスクマネジメント(概論) ・関連法規(基礎)	・物流営業(基礎) ・契約方式	・課題解決(基礎)	

SCM（サプライチェーンマネジメント）プログラム

人材育成（コース・セミナー）

●ストラテジックSCMコース

- ◆ 戦略的な視点から、経営科学的なアプローチを含めた最新のSCMを学ぶコースです。
- ◆ グループ演習で日本のSCMの問題構造を明らかにし解決策を検討します。

2023年度開催予定　：第27期　2023年 4月 ー 2023年 9月 オンライン
第28期　2023年10月 ー 2024年 3月 集合（東京）＋オンライン
※毎週金曜日19時～ 21時（2時間）　全20日間＋修了発表会

●『超』入門！ SCM シリーズ

・「『超』入門シリーズ」は5つのモジュールで構成されたサプライチェーンマネジメント（SCM）の入門セミナー群です。SCMの「設計・計画・実行」それぞれの業務領域に求められる「観点」と「基礎知識」の習得を目指しつつ、相互の関連性を同時に学びます。また、これらのモジュールはいずれも世界標準のSCMにおける世界観に準拠していますので、はじめてSCMの世界に足を踏み入れた方も、すでに実務経験を積まれた方も、受講後は本セミナーの内容を「共通言語」としてご活用いただける点にも特徴があります。

『超』入門！ 世界標準の SCMセミナー	『超』入門！ SCM担当者のための 生産管理セミナー	『超』入門！ SCM担当者のための ロジスティクスセミナー	『超』入門！ S&OPセミナー （仮称）	『超』入門！サプライチェーン設計（仮称） ※新規開講準備中
世界標準のSCMの世界観と基礎知識の全体像を俯瞰的に学習することを狙いとしたジュールです。シリーズの最初に受講することをおすすめします。	「実行」および「計画」領域の観点よりSCMを学びます。このモジュールでは「マテリアルズ・マネジメント（生産管理）」を学びます。	「実行」および「計画」領域の観点よりSCMを学びます。このモジュールでは「ロジスティクス」を学びます。	「計画」「戦略」領域の観点よりSCMを学びます。ROICを主軸に経営資源の配分に関する意思決定に寄与する提言のポイントを併せて学習します。	「戦略・設計」領域の観点よりSCMを学びます。唯一の正解が存在しない世界で道筋を示すための整理軸と考慮すべき基本的なポイントを学習します。

●SCM 専門セミナー

サプライチェーン 構造改革セミナー	需要予測の基本	梱包・包装最適化による物流コスト削減 実践セミナー	マーケティング視点によるサプライチェーンの考え方 ※開講準備中
SCMの基本的な考え方からSCM改革の進め方までを幅広く学習し、事例を交えた実践的な研修です。	ビジネスにおける需要予測で重要となる３つの学問（統計学・認知科学・経営学）の知見も交え、グローバル標準の知識と実務で有効なマインドを学びます。	デザイン・フォー・ロジスティクス（DFL:Design for Logistics）という考え方のもと梱包・包装の設計の見直しによる物流コスト削減のポイントや、DFL推進のためのステップを講義と演習を交えて学びます。	マーケティングの視点を取り入れたSCMの実践による顧客価値創造に必要な観点や、SCMにおける意思決定を行う上で必須となる「組織の壁の克服」について、講師の経験を交えて解説するとともに、グループ演習等を通して受講者の皆様と一緒に考えていきます。

●海外の SCM 資格認定（参考情報）

ASCMのAPICS SCM資格認定 公益財団法人日本生産性本部ホームページ http://apics.jp/	■CPIM　（Certified in Production and Inventory Management） 生産管理や在庫管理におけるプロフェッショナルな能力の基準として世界的に認知されており10万人以上が同資格の認定を受けています。 ■CSCP　（Certified Supply Chain Professional） SCMの戦略設計、導入、管理運営に関する主要な概念、それらを合理化や効率の改善のために組織に適用する知識を持っていることを認定する資格です。グローバルなサプライチェーンを意識して作られており、2万人以上が認定を受けています。 ■CLTD　（Certified in Logistics, Transportation, and Distribution） グローバルロジスティクスと輸配送を中心とする知識や評価できる能力を持っていることを認定する資格です。 ■SCOR-Professional　（Supply Chain Operations Reference-Professional） SCORモデルを用いてグローバルサプライチェーンのパフォーマンスを評価しマネジメントする能力を有することの資格保証（Endorsement）です。
CSCMPの SCM資格認定 https://cscmp.org/	■SCPro™ Certification SCPro™認定は、統合されたサプライチェーン活動における知識とスキルを評価する3段階プログラムです。ケーススタディ分析とROI向上を達成するための包括的なプロジェクト計画の策定等を通じて、ビジネスチャレンジを戦略的に評価し、サプライチェーンの改善を効果的に実施する能力を検証します。

※諸事情（新型コロナウイルスの感染状況など）により、内容・日時等を変更する場合があります。

研究会

◆ 参加者相互に情報交流、意見交換出来る場を設け、課題解決のヒントを共有すること及びヒューマン・ネットワークを構築することを目的として開催します。
◆ 参加者相互の活発な意見交流の場とすることがねらいとし、参加者全員が情報の“GIVE AND TAKE”の姿勢で臨んでいただくことを基本とします。

●荷主ミーティング

◆ 荷主企業を対象として、各テーマに関するディスカッション、検討結果やメンバー事例発表等を通じて課題解決へのヒントを共有します。

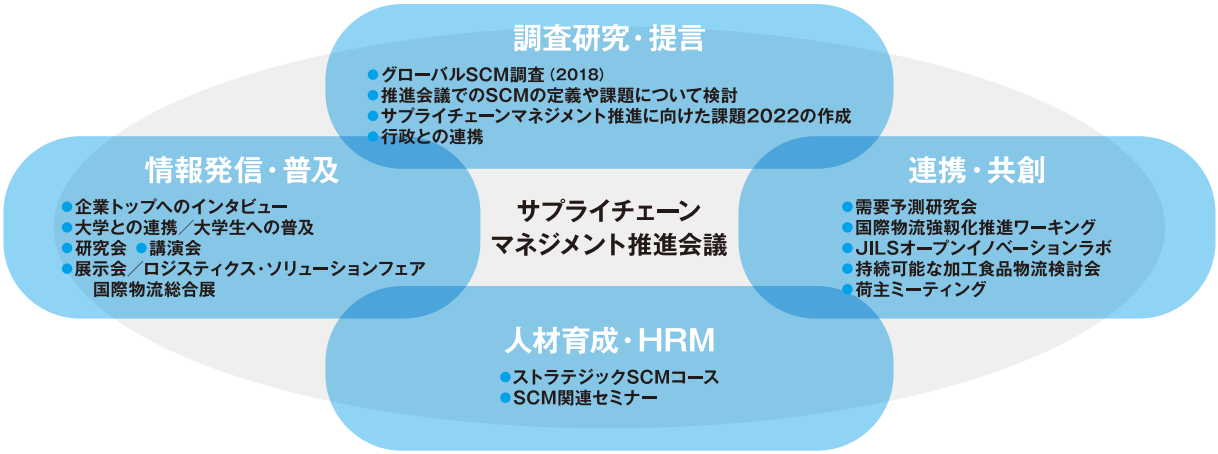
●～S&OPで経営に貢献する「需要予測研究会」～

◆ 概要
1）S&OPを効果的に推進する起点となる需要予測精度を向上させるマネジメントの検証
2）そのための「6つの軸」をフレームワークに、参加企業各社の現状を把握
3）先進的な事例発表や課題の共有および示唆の提供、人的ネットワークの形成

SCM ACADEMY of JAPAN（SCM-AJ）の活動

公益社団法人日本ロジスティクスシステム協会（JILS）は、この度、協会内にSCM ACADEMY of JAPAN（SCM-AJ）を設置し、産業界の問題発見と課題解決に寄与すべく、以下の活動を進めてまいります。

- ●企業内・外における研究の一助のための「調査研究・提言」
- ●企業間の連携や業種・業態を横断するための「連携・共創」
- ●最新の情報や技術を収集し普及するための「情報発信・普及」
- ●『超』入門！SCMシリーズなど、SCMの高度化に向けての人材育成をはじめとする「HRM（Human Resource Management；人的資源管理）」



本活動の一環として、『サプライチェーンマネジメント推進に向けた課題2022』を冊子として発行することとなりました。
本冊子が自社内でSCMの推進に取り組む皆様の参考資料となるようご案内いたします。

https://www1.logistics.or.jp/news/detail.html?itemid=724&dispmid=703

SCM-AJでは、SCMの課題に対して次の４つの提案をしており、提案の実現に向け事業の充実に取り組んでまいります。

提案1 SCMの知識を活用し企業同士、産業同士の情報連携を促進しよう！
これから訪れる比較的近い未来の課題を企業間・産業間の連携によって解決しようというもので、その手段としてSCMの知識を活用することを提案しています。

提案2 行政やアカデミアの領域においてもSCMへの関心を高めよう！
従来、SCMは民間企業で活用するものと考えられがちでありましたが、日本の産業界の発展にはアカデミアや行政の関与が不可欠であると考えます。

提案3 「世界標準のSCM」を活用し日本発の価値を世界中に届けよう！
せっかく日本企業が持っている特色が宝の持ち腐れとならないよう、世界標準のSCMを学び、価値提供の部分を強化していただきたいという思いがあります。

提案4 これからの「世界標準」を共に作ろう！
より先の将来を見据えて、日本もグローバルでのルールメーキングに参加することを提案しています。その前提として、本冊子で課題として取り扱った標準化や民間企業同士の連携、また、アカデミアや行政との協調が欠かせません。その意味でこれを最後の提案としました。

グローバル人材育成プログラム

資格認定講座・セミナー

●国際物流管理士資格認定講座

◆ 国際物流のスペシャリストとして必要な専門知識を総合的、体系的に学べる資格認定講座です。

●新任担当者のための国際物流基礎セミナー

◆ 初めて国際物流に携わる方々を対象に、国際物流の基礎を体系的に学びます。

研究会

●国際物流強靭化推進ワーキング

◆ 開催時期　2023年5月～2024年3月（全11回）
◆ 活動目的
荷主企業（製造業主体）として事業の継続・持続性を高めるため、国際物流の強靭化に向けて関係者間で取組み等の共有および協調・連携すべき事項等に関する検討、検証、実証を行い、その結果を普及します。
◆ 参加対象
・荷主企業（製造業主体）SCM・ロジスティクス・物流部門、事業部門等の管理者
・荷主企業に解決策を提案できるソリューション／システムベンダー等の管理者、担当者

ASEANにおける物流人材育成　【資格認定講座】

●タイ　ロジスティクス管理士資格認定講座

１）講座名称　：　Logistics Qualification System Program　(LQSP PLUS)
２）開催予定　：2023年9月開講(予定)
３）開催地　：タイ・バンコク
４）言語　：タイ語
※詳細はタイ荷主協議会(TNSC)のホームページをご参照ください。
http://www.tnsc.com/

●インド　物流現場改善士資格認定講座

インドは人口規模の大きさ、高い経済成長率、中間層・富裕層の増大等により消費市場としての魅力度が高い。さらには、欧州・アフリカとアジアとの中間に位置するサプライチェーンの要所になっている。インドで事業を展開するうえで物流がボトルネックにならないためには高度化する顧客からの要求に対応できる人材や、物流現場を支える人材等、物流人材を育成する環境を早急に整備する必要がある。本講座はインドの物流現場の改善指導ができる人材育成の環境整備を目的に経済産業省の委託事業にて日本ロジスティクスシステム協会(JILS)及び日本人専門家の協力により、CII-ILが新たに構築した倉庫管理に関する資格認定講座であり、中間管理者、現場リーダー向けに実施されるものである。

１）講座のねらい：物流現場の生産性向上を行う改善の視点をもち、改善指導ができる物流現場改善リーダーを育成する。
２）講座名称　：Certified Warehouse Kaizen Practitioner
３）会期　：2023年に2回程度実施(予定)
４）受講料　：INR 17,700 (Inclusive of GST) per person
５）受講対象者　：管理層（マネージャーレベル)、物流現場リーダー
６）開催地　：インド（オンライン開催）
７）言語　：英語
８）主催　：インド工業連盟 (Confederation of Indian Industry - Institute of Logistics：CII-IL)
９）問合せ先　：Mr.Charles Arul Dawson (Deputy Director)
charles.apk@cii.in
※詳細はインド工業連盟 (Confederation of Indian Industry - Institute of Logistics：CII-IL) のホームページをご覧ください。
http://ciilogistics.com/edu-progkaizen.html

海外人材育成支援ツール

●物流教育DVD【英語ナレーション付】

◆ 海外現地法人のスタッフ教育の際にお使いください。
◆ 収録時間　約25分。

①正しい荷扱いとは
②正しい現品管理とは

●物流現場改善推進のための手引書【英語版・ベトナム語版・タイ語版】

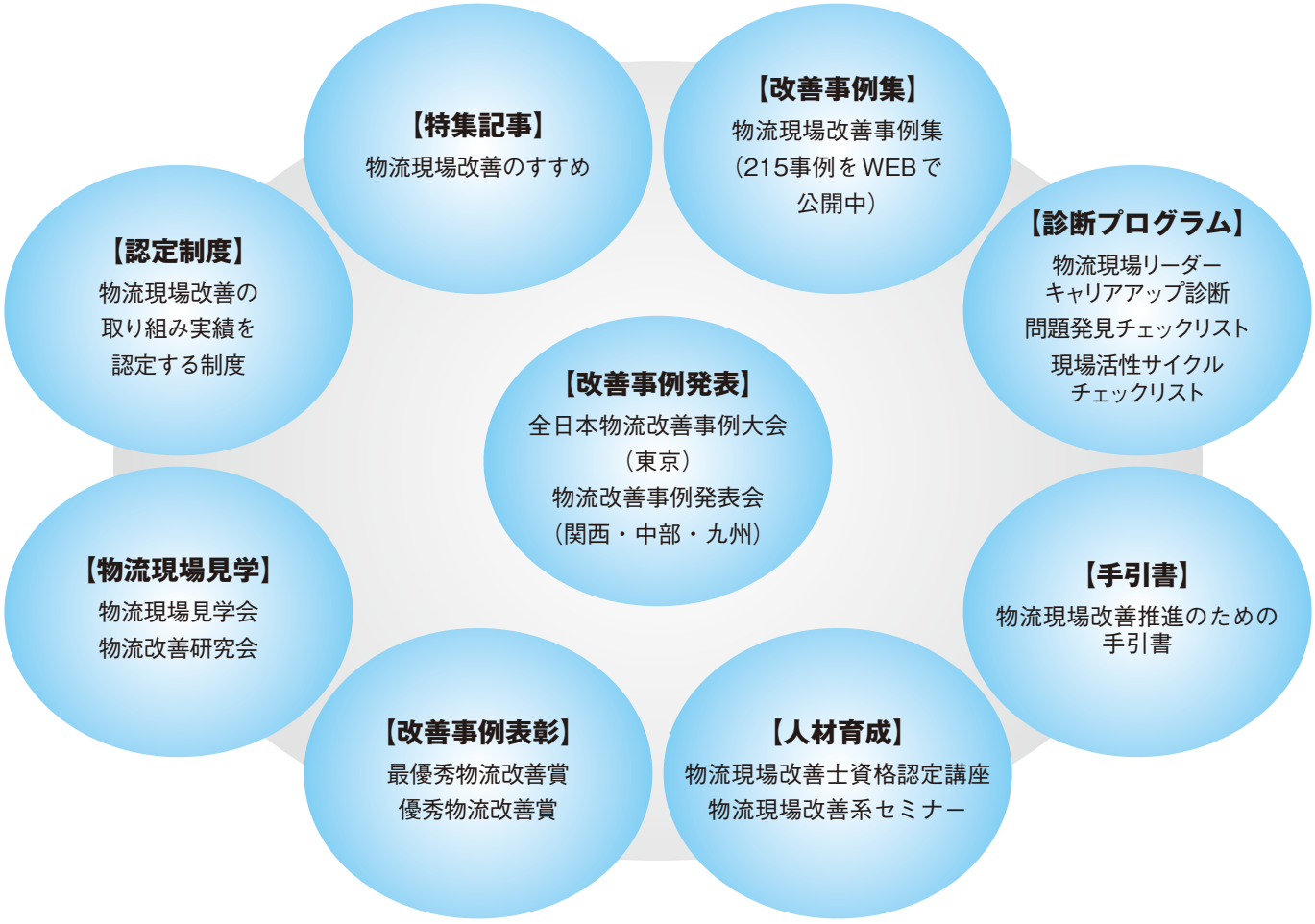
◆ 海外現地法人において物流現場改善活動を推進する際にお使いください。

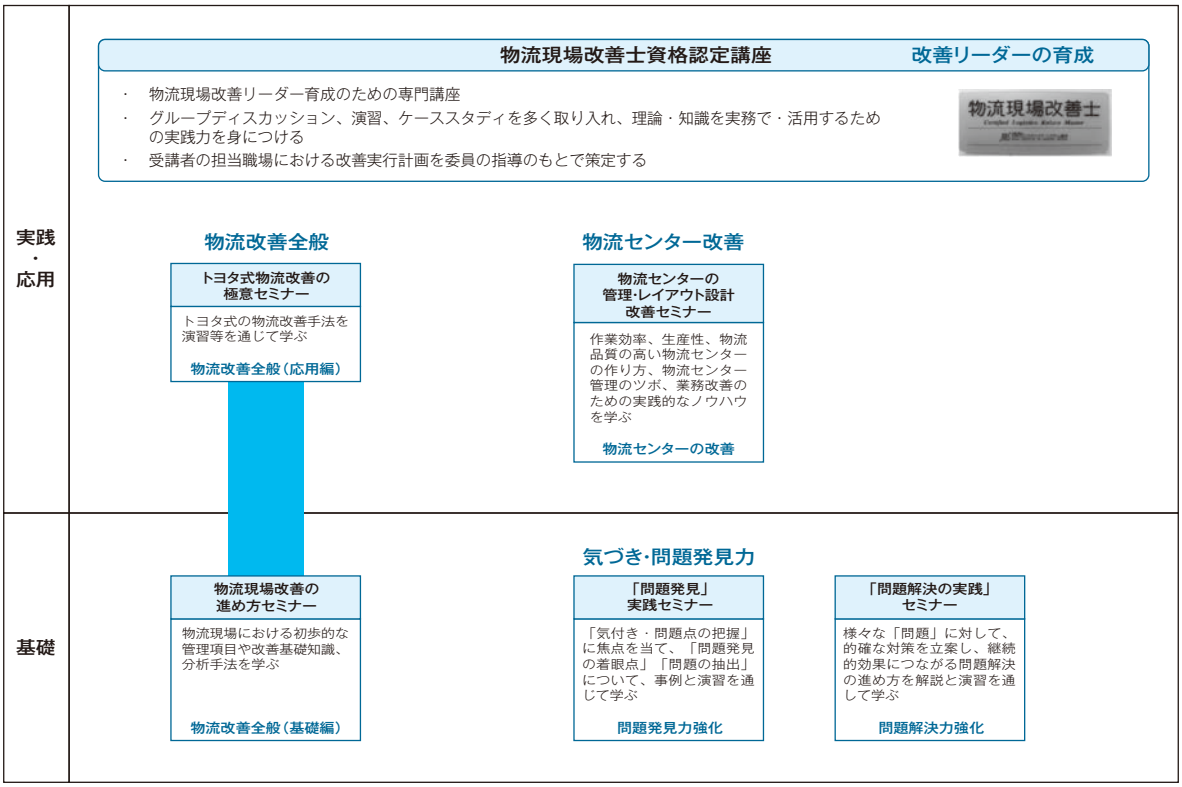
英語版
ベトナム語版
タイ語版

※諸事情（新型コロナウイルスの感染状況など）により、内容・日時等を変更する場合があります。

物流現場改善活動に取り組もう！

●日本ロジスティクスシステム協会は、各社の物流現場改善活動を活性化するための取り組みを展開しています。貴社の物流現場改善活動の活性化にお役立てください。





日本ロジスティクスシステム協会の資格制度

資格取得者数

階層別

専門知識を実務に応用

資格名称

ロジスティクス経営士

474名
2002年度～

Certified Logistics Senior Master

◆経営の視点からロジスティクスを捉え、改革を推進することができるCLO（チーフ・ロジスティクス・オフィサー）

物流技術管理士

12,134名
1993年度～

Certified Logistics Master

◆物流・ロジスティクスの専門知識や管理技術を有し、物流品質向上、物流効率化、コストダウン等を実現できるロジスティクスのプロフェッショナル

物流技術管理士補

2,829名
1997年度～

Certified Assistant Logistics Master

◆物流・ロジスティクスに関わる基礎知識を有し、実務への応用の仕方を習得している次世代のロジスティクス・プロフェッショナル

テーマ別

国際物流管理士

1,618名
1978年度～

International Logistics Master

◆国際物流の専門知識を有し、グローバルレベルで全体最適を志向し、幅広い視点で新たな事業やサービスを企画し、実践することができる国際物流のプロフェッショナル

物流現場改善士

708名
2010年度～

Certified Logistics Kaizen Master

◆物流現場の現状を把握し、課題を解決するために定量データをもとに改善実行計画を立案し、メンバーと協力しあいながら改善を推進することができる物流現場の改善リーダー

（2022年11月現在）

「ロジスティクス プロフェッショナル」育成のための資格認定講座

講座名 ロジスティクス経営士資格認定講座

受講対象
- ロジスティクス関連の実務経験が5年程度ある、部長職クラスまたは部長職候補、ならびに幹部候補の方
- 物流技術管理士または国際物流管理士の資格取得後、実務を3年以上経験した幹部候補の方

開催日数 14日間（予定）

受講料
JILS会員　：440,000円（税込・１名につき）
JILS会員外：550,000円（税込・１名につき）

プログラムの特徴 講義／ケーススタディ／グループミーティング／小テスト
論文試験　／　面接試験

2023年度開講日程 第22期（集合（東京）＋オンライン）
2023年10月～2024年3月

講座名 物流技術管理士資格認定講座

受講対象
- 物流に関する基本的な用語を理解している方
もしくは
- 物流技術管理士補の有資格者

開催日数 18日間

受講料
JILS会員　：495,000円（税込・１名につき）
JILS会員外：605,000円（税込・１名につき）

プログラムの特徴 講義（全13単元）／受講レポート（前期・後期）／客観試験（前期・後期）／論文試験／面接試験

2023年度開講日程
第150期（集合（東京）＋オンライン）　2023年6月開講予定
第151期（集合（大阪／名古屋）＋オンライン）　2023年7月開講予定
第152期（集合（東京））　2023年9月開講予定

講座名 物流技術管理士補資格認定コース
（旧　物流技術管理士補スクーリング）

受講対象
- 産業能率大学が実施する所定の通信教育修了者
- 東京海洋大学大学院「食品流通安全管理学」講義における所定単位取得者
- 流通経済大学流通情報学部ならびに大学院物流情報学研究科における所定単位取得者
- 中央職業能力開発協会が実施するビジネスキャリア検定「ロジスティクス管理」または「ロジスティクス・オペレーション」の2級もしくは3級の合格者かつ、企業等での実務経験を有する方。
- ロジスティクス基礎講座の修了者

開催日数 2日間

受講料 75,900円（税込・１名につき）

プログラムの特徴 講義／グループ演習／事前課題レポート

2023年度開講日程 集合（東京）　2023年9月（2日間）
オンライン　2024年2月（2日間）

講座名 ロジスティクス基礎講座

受講対象
- ロジスティクス関連部門の新入社員・新任担当の方
- 上記部門以外でロジスティクスの基礎知識を身につけたい方

開催日数 6日間

受講料
JILS会員　：　88,000円（税込・１名につき）
JILS会員外：104,500円（税込・１名につき）

プログラムの特徴 講義／事前課題レポート／事後課題レポート

2023年度開講日程
第87期（集合（東京）・オンライン選択形式）　2023年６月～７月
第88期（オンライン）　2023年10月～11月

講座名 国際物流管理士資格認定講座

受講対象
- 国際物流関連業務に従事し2年程度の経験を有する方
- 国際物流のスペシャリストを志向する方
- 国際物流に携わる中堅管理者、担当者

開催日数 19日間

受講料
JILS会員　：440,000円（税込・１名につき）
JILS会員外：550,000円（税込・１名につき）

プログラムの特徴 講義（全9単元）／国際物流施設見学／ケーススタディ／レポート試験（全5回）／客観試験

2023年度開講日程 第45期（オンライン）
2023年9月～2024年3月

講座名 物流現場改善士資格認定講座

受講対象
- 製造業・流通業、物流業（運送事業者・倉庫業者等）の物流現場改善のリーダーとリーダー候補で物流に関する基本的な用語を理解している方

開催日数 10日間

受講料
JILS会員　：297,000円（税込・１名につき）
JILS会員外：407,000円（税込・１名につき）

プログラムの特徴 講義（全5単元）／
ケーススタディ・グループディスカッション／
レポート試験（全３回）／
レポート指導／
担当職場の「改善実行計画」の作成

2023年度開講日程 第14期（集合（東京）＋オンライン）
2023年6月～2024年1月

※諸事情（新型コロナウイルスの感染状況など）により、内容・日時等を変更する場合があります。

ロジスティクス経営士資格認定講座

開催地　東京／オンライン

ロジスティクスを経営の視点からデザイン
～エグゼクティブのための専門講座～

概　　要	● 実務経験豊富な委員・講師による講義や指導、実践的なケーススタディへの取り組みを通じて、製造業・流通業の物流・ロジスティクス関連部門の責任者や、物流企業の経営幹部に求められる、戦略的思考力、財務分析力、戦略立案力、課題解決力の強化を図ります。
資格取得	● 本講座を修了し、所定の試験に合格した方に、「ロジスティクス経営士」の資格が授与されます。
受講資格	● ロジスティクス関連の実務経験が5年程度ある、部長職クラスまたは部長職候補もしくは幹部候補の方。 ● 物流技術管理士または国際物流管理士の資格取得後、実務を3年以上経験した幹部候補の方。
期待される到達レベル	● 経営の視点を常に意識して、考えることができる。 ● 財務諸表を分析し、企業の課題を発見することができる。 ● 課題を把握し、優先順位をつけることができる。 ● 課題解決のための方策を立案することができる。 ● 課題解決案を他者に説明し、理解を得ることができる。 ● 自社の業界、自分の立場にとらわれず、自由で柔軟な発想ができる。
合格基準	● 資格の合否判定は能力開発委員会 ロジスティクス経営士専門委員会が行い、以下の基準をすべて満たした場合、合格と判定される。 ①講座の修了者であること。 ②論文試験と面接試験を受験し、その合計点（100点満点）が80点以上であること。 ＊配点内訳：論文試験40点／面接試験60点
講　　師	● 各専門分野の第一線の学識経験者、実務家、専門コンサルタント　など
会期・開催地（開催方法）・定員	6ヵ月間（14日間（予定）） ● 第22期 2023年10月～2024年3月　集合（東京）＋オンライン（30名）
受講料（税込：1名につき）	①会員　440,000円 ②会員外　550,000円 ③有資格者優待（会員）　385,000円 ④有資格者優待（会員外）　495,000円

プログラム（2022年度実施のプログラム内容）

【第1単元】　ロジスティクスと経営戦略
1. ロジスティクスと経営戦略
2. SCM概論
3. ロジスティクス戦略に関わるデジタルトランスフォーメーションの現状と方向性について
4. SCM企業事例
5. SCMとベンチマーク

【第2単元】　ロジスティクスと経営管理
1. 財務分析と経営管理指標
2. ロジスティクスと在庫マネジメント
3. ロジスティクスと経営の評価
4. ロジスティクスと経営の評価（企業事例）

【第3単元】　ロジスティクスにおける企業間コラボレーション
- コーディネータ、発表者による講演
- 受講者参加によるディスカッション

【第4単元】　企業経営とＧＲＣ
1. 企業経営とGRC（ガバナンス・リスク・コンプライアンス）
2. コーポレート・ガバナンスとリスクマネジメントの実践

【第5単元】　組織の設計
1. 組織の設計と基本デザイン
2. 企業事例

【第6単元】　ロジスティクスとSDGs
1. ロジスティクスとSDGs

【第7単元】　グローバリゼーション
1. ロジスティクスとグローバリゼーション
2. 企業事例

【第8単元】　ロジスティクスの戦略立案（ケーススタディ）

ケーススタディ

架空企業を題材としたケーススタディ（２つの例題／論文執筆のためのケースブック）に取り組み、ロジスティクスの戦略立案について実践的に学びます。

グループ・ミーティング（全３回）

グループメンバー相互の発表やディスカッション、委員からの指導を通じて自社のロジスティクスの課題を整理し、解決案について検討します。

※諸事情（新型コロナウイルスの感染状況など）により、内容・日時等を変更する場合があります。

物流技術管理士資格認定講座

開催地　東京／大阪／名古屋／オンライン

認定者は 12,000 名以上
物流・ロジスティクスのプロフェッショナルを育成する専門講座

概　要	● 物流技術管理士資格認定講座は、物流管理者および物流技術者として必要な、物流・ロジスティクスの全領域にわたる専門知識およびマネジメント技術を総合的かつ体系的に学ぶ講座です。 ● 製造業・流通業、物流事業者、物流子会社の方を中心として、例年、約400名の方にご受講いただいております。
資格取得	● 本講座を修了し、所定の試験に合格した方に、「物流技術管理士」の資格が授与されます。
資格認定規程（抜粋）	● 会期中（18日間）、14日以上出席すること。 ● 前・後期2回分の受講レポートを提出していること。 ● 客観試験（前・後期に筆記試験を2回実施）、論文試験、面接試験の全てを受験し、それぞれの試験の得点が満点の6割以上であり、かつ、すべての試験の合計点から欠席点と受講レポート遅延の減点を引いた総合点が60点以上であること。 ※資格認定規程については、開講式で詳細を説明いたします。ご不明な点は事務局にお問い合わせください。
受講資格	● 物流に関する基本的な用語を理解している方。もしくは ● 物流技術管理士補の有資格者。
講　師	● 各専門分野を代表する学識経験者、実務家、専門コンサルタント　など
会期・開催地（開催方法）・定員	6～7ヵ月間（18日間） ● 第150期 2023年 6月開講予定 集合（東京）＋オンライン（120名） ● 第151期 2023年 7月開講予定 集合（大阪/名古屋）＋オンライン（110名） ● 第152期 2023年 9月開講予定 集合（東京）（80名）
受講料（税込：1名につき）	①会員　495,000円 ②会員外　605,000円 ③有資格者優待（会員）　440,000円 ④有資格者優待（会員外）　550,000円

プログラム

【プレミーティング】（2日）
問題の発見と解決（グループ演習）

【第1単元】 経営とロジスティクス（1日）
1. 企業価値を高めるロジスティクスの役割
2. ロジスティクスにおける顧客サービス
3. ロジスティクス戦略
4. ロジスティクスIT概論

【第2単元】 物流コスト管理（1日）
1. 物流コスト管理概論
2. 物流ABCの活用

【第3単元】 物流拠点管理（2日）
1. 保管・荷役とマテハン機器
2. 物流拠点におけるIT活用
3. 生産性と品質管理
4. 物流拠点管理概論（個人演習）

【第4単元】 輸配送管理（2日）
1. 輸配送管理概論
2. 輸配送におけるIT活用
3. 輸配送システムの構築（個人演習）

【第5単元】 包装技術（0.5日）
1. 包装技術概論

【第6単元】 物流現場改善（1.5日）
1. 科学的管理技法概論
2. 物流現場の改善技法（個人演習）

【第7単元】 総合演習Ⅰ（2日）
物流改善演習（グループ演習）

【第8単元】 在庫管理とSCM（1日）
1. 在庫管理とSCM概論
2. 在庫管理の実務
3. SCMの実務

【第9単元】 グローバルロジスティクス（0.5日）
1. グローバルロジスティクス概論

【第10単元】 グリーンロジスティクス（0.5日）
1. グリーンロジスティクス概論

【第11単元】 物流アウトソーシングと3PL（1日）
1. 物流アウトソーシング、3PL
2. 3PLと契約

【第12単元】 ロジスティクスの社会的役割（1日）
1. CSR
2. 標準化
3. 行政の動向

【第13単元】 総合演習Ⅱ（2日）
物流改革演習（グループ演習）

※諸事情（新型コロナウイルスの感染状況など）により、内容・日時等を変更する場合があります。

物流技術管理士補資格認定コース

（旧　物流技術管理士補スクーリング）

開催地　東京／オンライン

概　　要	●ロジスティクス構築による経営革新に向けた計画の立案に取り組んでいただくグループ演習をカリキュラムの中心に据えています。 ●通信教育や講座、講義で学ばれた知識を計画立案時にどのように活用すればよいか、企業事例をベースとしたグループ演習を通じて実践的に経験していただくことを目的としています。
資格取得	●事前に課題レポートをご提出いただいた後、本講座に2日間出席し、修了した方に「物流技術管理士補」の資格が授与されます。
受講資格	●ロジスティクス基礎講座の修了者。 ●産業能率大学が実施する所定の通信教育修了者。 ●東京海洋大学大学院「食品流通安全管理学」講義における所定単位取得者。 ●流通経済大学流通情報学部および大学院物流情報学研究科における所定単位取得者 ●中央職業能力開発協会が実施するビジネスキャリア検定「ロジスティクス管理」または「ロジスティクス・オペレーション」の2級もしくは3級の合格者かつ、企業等での実務経験を有する方。

会期・開催地（開催方法）・定員	2023年　9月（2日間）　集合（東京）（60名） 2024年　2月（2日間）　オンライン（60名）
受講料（税込：1名につき）	75,900円

プログラム

【第1日目】

1. ロジスティクスの重要性と取り巻く環境
2. ケーススタディ　【演習】
   ・演習問題の説明　　・グループディスカッション

【第2日目】

3. ケーススタディ　【演習】（前日の続き）
   ・グループディスカッション　　・講評／解説
   ・グループディスカッション結果発表
4. 資格認定証授与

ロジスティクス基礎講座

開催地　東京／オンライン

概　　要	●物流・ロジスティクスに関わる基礎知識や技法を体系的に学習するための講座です。 ●ロジスティクスの基本から物流現場のオペレーションまで、わかりやすく解説し、実務に直結するカリキュラムになっています。 ●受講者の方々に講義内容の理解を深めていただくために、課題レポート（前半1回、後半1回）をご提出いただきます。 ●本講座を修了された方には「修了証」を授与いたします。
修了規程	●講座を全日出席し、課題レポート2回を提出すること。
資格取得	●本講座を修了後、当協会が主催する「物流技術管理士補資格認定コース」（2日間）を受講され、修了された方には、「物流技術管理士補」の資格を授与いたします。
対　　象	●ロジスティクス関連部門の新入社員・新任担当の方。 ●上記部門以外でロジスティクスの基礎知識を身につけたい方。
講　　師	●各専門分野を代表する学識経験者、実務家、専門コンサルタント　など
会期・開催地（開催方法）・定員	●第87期 2023年　6月～2023年　7月 集合（東京）・オンライン選択形式（150名） ●第88期 2023年10月～2023年11月 オンライン（150名）
受講料（税込：1名につき）	①会員　88,000円 ②会員外　104,500円

プログラム

Ⅰ．ロジスティクス概論（1）（2）
Ⅱ．ロジスティクス・オペレーションの基本機能
　①包装
　②輸配送（1）（2）
　③保管
　④荷役
　⑤情報システム
Ⅲ．在庫管理
Ⅳ．物流コスト
Ⅴ．物流改善
Ⅵ．ロジスティクスの課題と展望

※諸事情（新型コロナウイルスの感染状況など）により、内容・日時等を変更する場合があります。

国際物流管理士資格認定講座

開催地 オンライン

国際物流の基本から法規制や最新情報、企業事例を学び、国際物流のプロフェッショナルを目指す専門講座

概　　要	● 国際物流管理士資格認定講座は、国際物流プロフェッショナルとして必要な専門知識を総合的、体系的に学ぶ講座です。
資格取得	● 本講座を修了し、所定の試験に合格した方に、「国際物流管理士」の資格が授与されます。
資格認定規程（抜　粋）	● 出席に関する規程 講座期間中、14日以上出席すること。 ● 試験に関する規程 客観試験およびレポート試験（5回）をすべて受験し、それぞれの得点が70点以上（100点満点）であること。 レポート試験と客観試験の平均点（100点満点）から、欠席点を引いた得点が70点以上であること。 なお、欠席点は1日につき1点、半日につき0.5点とする。 ※資格認定規程の詳細は、講座の開講時に、事務局よりご説明します。
受講資格	● 国際物流関連業務に従事し、2年程度の経験を有する方。
対　　象	● 国際物流のプロフェッショナルを志向する方。 ● 国際物流に携わる中堅管理者、担当者。
講　　師	● 各専門分野を代表する学識経験者、実務家、専門コンサルタント　など
会期・開催地（開催方法）・定員	6ヵ月間（19日間） ● 第45期 2023年9月～2024年3月　オンライン(36名)
受講料（税込：1名につき）	①会員　440,000円 ②会員外　550,000円 ③有資格者優待（会員）　385,000円 ④有資格者優待（会員外）　495,000円

現地見学のイメージ（集合型研修の場合）　写真はイメージです

プログラム

【第1単元】グローバルロジスティクスのアウトラインを捉える（1.5日）
1. 国際物流とロジスティクス
2. グループ討議
3. 昨年度総代による講演

◆キックオフミーティング（交流会）

【第2単元】輸出入業務の流れと貿易実務に必要な知識を学ぶ（2.5日）
1. 国際マーケティングとインコタームズ、ウィーン売買条約
2. 輸出入における通関業務と保税手続き、通関システム
3. FTAとEPA、原産地規則、AEO制度
4. 貿易売買契約と各種決済方法、外国為替とリスクヘッジ、国際ファイナンス、FinTech（貿易取引のデジタル化）

【第3単元】国際物流の根幹を成す海上輸送を理解する（2日）
1. 国際海上貨物輸送概論
2. 海上個品運送契約/船荷証券/Sea Waybill/複合運送証券
3. 海上コンテナ輸送に関して
4. フォワーダーとNVOCCと国際複合輸送
5. 海上運送における危険物概論
6. 国際物流におけるコスト削減に向けた取り組み

【第4単元】航空輸送の仕組みとポイントを理解する（1日）
1. 航空産業概論
2. 航空貨物輸送概論、航空協定、航空運送約款と航空運送状、航空貨物運賃

【第5単元】グローバルサプライチェーンの可視化と最適化の手法を学ぶ（3日）
1. グローバルサプライチェーンにおけるKPIの算定と既存業務プロセスの見直し
2. サプライチェーン最適化のためのシステム構築
3. グローバルサプライチェーンの各種改善技法
4. 3PL概論
5. グループ討議

【オンライン見学】国際物流の最前線を、見学して感じる（1日）

【第6単元】国際物流のリスクを理解し、対処する方策を学ぶ（2日）
1. リスクマネジメント・BCP概論
2. 国際物流におけるリスクマネジメント事情
3. 国際物流におけるリスクマネジメントとロスプリベンション
4. 貿易貨物保険とクレームの実務

【第7単元】 海外の最新物流環境を学ぶ（2日）
1. インドの最新物流事情
2. 欧州の最新物流事情
3. 米国の最新物流事情
4. ASEANの最新物流事情
5. 中国の最新物流事情

【第8単元】グローバル企業が直面した課題と解決方法を学ぶ（2日）
1. 海外におけるSCM・ロジスティクス改善事例
2. 海外駐在における駐在員の心得
3. ITによる国際物流の見える化
4. 海外現地における人材マネジメント方策
5. グローバルサプライチェーンの構築事例

【第9単元】あるべき姿に到達するための実践力を身につける（2日）
1. ケーススタディ「グローバルロジスティクス改革」

●レポート試験（5回・・・第2～6単元）

●客観試験

※諸事情（新型コロナウイルスの感染状況など）により、内容・日時等を変更する場合があります。

物流現場改善士資格認定講座

開催地 東京／オンライン

物流現場改善をデータで議論、数値で管理し、改善を実践する物流現場改善リーダー育成のための専門講座

概　　要	● グループディスカッション、演習を多く取り入れ、理論・知識を実務で・活用するための実践力を身に付けます。 ● 実際の企業の物流現場をモデルにしたケーススタディに取り組みます。 ● 講座の成果として受講者の担当職場の改善実行計画が完成します。
資格取得	● 本講座を修了し、所定の試験に合格した方に、「物流現場改善士」の資格が授与されます。
受講対象	● 製造業・流通業、物流業（運送事業者・倉庫業者等）の物流現場改善のリーダーとリーダー候補で物流に関する基本的な用語を理解している方。
期待される到達レベル	● 物流業務における問題点を常に意識し、問題点を把握することができる。 ● 把握された問題点を、各種の分析手法を用い分析し、課題を抽出することができる。 ● 抽出された課題に優先順位をつけ、課題解決のための方策を立案することができる。 ● 課題解決案を社内外の関係者に説明し、理解を得、実行することができる。 ● 実行した課題解決の結果を評価できる。
合格基準	● 資格の合否判定は能力開発委員会 物流現場改善士専門委員会が行い、以下の基準を満たした場合、合格と判定される。 ● 講座の修了者であること。 ● 以下3つのレポート試験の全てを遅延なく提出し、「改善実行計画レポート－2」の全ての採点項目の得点が6割以上であること。 ①「問題発見・改善企画レポート」 ②「改善実行計画レポート－1」 ③「改善実行計画レポート－2」
講　　師	● 各専門分野を代表する学識経験者、実務家、専門コンサルタント　など
会期・開催地（開催方法）・定員	（10日間） ● 第14期 2023年6月～2024年1月 集合（東京）＋オンライン（70名）
受講料（税込：1名につき）	①会員　297,000円 ②会員外　407,000円

プログラム

【第1単元】　物流現場改善概論

1. 物流現場改善概論

【第2単元】　現状把握力の強化

1. 問題発見の基礎
2. 問題発見のヒント

【第3単元】　改善企画力の強化

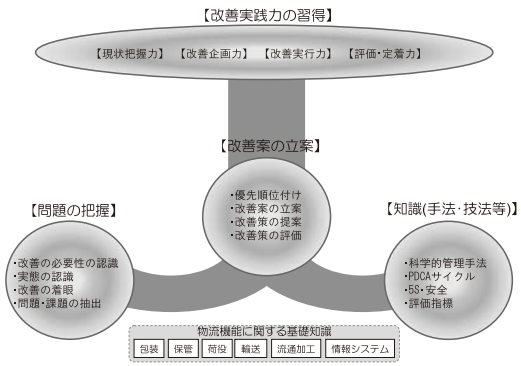
1. レポート作成のポイント
2. 物流コスト分析
3. 科学的管理手法の習得－QC
4. 科学的管理手法の習得－IE

【第4単元】　改善実行力・評価･定着力の強化

1. 振返り演習－1
2. 改善実行の推進について
3. 物流現場改善の評価・定着・横展開
4. 物流評価指標・KPI
5. ケースの出題・説明

【第5単元】　物流現場改善立案：ケーススタディ

1. 振返り演習－2
2. レポート指導
3. ケーススタディのグループディスカッション
4. グループごとの提案書発表
5. 講評とまとめ



※諸事情（新型コロナウイルスの感染状況など）により、内容・日時等を変更する場合があります。

ストラテジック SCM コース

開催地 東京／オンライン

いま問われるサプライチェーンの真価
戦略的な視点で学ぶ「最先端の SCM」

概　　要	● 戦略的な視点から、経営科学的なアプローチも含めた最新のSCMを学びます。 ● グループ演習で、日本のSCMの問題構造を、現状問題構造ツリー(CRT)により明らかにし、解決策を検討します。 ● 本コースは、2016年度より東京工業大学大学院イノベーションマネジメント研究科キャリアアップMOTより、コースを引き継ぎ、日本ロジスティクスシステム協会が運営しています。
修了規程	● 出席に関する要件（15日以上出席）を満たした者 ● 出席に関する要件（13.5日以上出席）を満たし、コーディネーターが受講評価を可と認めた者
対　　象	● 企業の経営企画を担当する経営幹部あるいはスタッフの方、サプライチェーンの計画・設計・管理・運営を担当する社会人の方
講　　師	● 各専門分野を代表する学識経験者、実務家、専門コンサルタント　など
会期・開催地（開催方法）・定員	(21日間) ※20日：毎　週　19：00～21：00 　1日：最終日　13：30～18：00 第27期 ● 2023年 4月～2023年9月 オンライン(30名) 第28期 ● 2023年10月～2024年3月 集合(東京)＋オンライン(30名)
受講料（税込：1名につき）	198,000円

プログラム

【SCMの概念と経営戦略】

1. オリエンテーション/SCMの全体像と授業科目
2. SCMと経営 その1
3. SCMと経営 その2
4. 経営戦略とビジネス・ロジスティクスの新たな方向性について
5. SCM実現を阻む根底問題を探る
   ～CRTを用いたグループワーク演習～
6. サプライチェーンの複雑性と企業間協働の効果：
   SCMゲームの体験を通して

【流通市場とSCM】

7. デジタルプラットフォームの進展とバリューチェーンの革新
8. ロジスティクスマネジメントとSCM部門の役割
9. 消費財流通のチャネル戦略とSCM
10. マーケティングとSCM
11. サプライチェーン可視化とトレーサビリティー

【サプライチェーンの実行プロセス】

12. SCM性能の見える化
    ～SCMスコアカードとSCMの課題～
13. プロセスモデル（SCOR）による業務プロセス改革
14. スケジューリング、サプライチェーン、BOM
15. サプライチェーン経営戦略と組織能力
16. サプライチェーン計画マネジメントとS&OP

【SCMにおける数理技術／ORの活用】

17. SCMにおける需要予測・在庫最適化と生産管理方針
18. ORを使った最適化モデルと企業戦略への活用
19. SCMにおけるORの活用～意思決定を助ける経営科学～

【総括】

20. 経営戦略とSCM、SCM改革のためのチェンジマネジメント

【グループ課題発表会・修了行事】

授業風景（集合型研修の場合）

※諸事情（新型コロナウイルスの感染状況など）により、内容・日時・開催方法等を変更する場合があります。

2023年度　開催予定セミナー　一覧

オンライン開催　※諸事情により、内容・日時等を変更する場合がございますので、ご了承ください。

セミナー名	2023年									2024年		
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
輸配送効率化実践セミナー			●									
需要予測の基本			●									
『超』入門！ 世界標準のSCMセミナー				●								
営業で勝つために効くセミナー				●								
「問題解決の実践」セミナー				●								
梱包・包装最適化による物流コスト削減実践セミナー				●								
物流DX推進のためのIT基礎セミナー					●							
たった一日でよく判る物流コスト基礎セミナー					●							
物流コスト＆KPI管理入門セミナー						●						
『超』入門！ SCM担当者のための生産管理セミナー							●					
在庫適正化実践セミナー								●				
サプライチェーン構造改革セミナー									●			
『超』入門！ SCM担当者のためのロジスティクスセミナー									●			
『超』入門！ S&OPセミナー（仮称）										●		
物流センターの管理・レイアウト設計改善セミナー										●		
「問題発見」実践セミナー											●	
新任担当者のための国際物流基礎セミナー												●

※諸事情（新型コロナウイルスの感染状況など）により、内容・日時等を変更する場合があります。

集合形式（大阪）

※諸事情により、内容・日時等を変更する場合がございますので、ご了承ください。

セミナー名	2023年									2024年		
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
即実践！ 新任担当者のための物流営業セミナー		●										
しってるをしてるに！！ トヨタ式物流改善の極意		●										
物流現場改善の進め方			●									
「物流提案営業の進め方」実践セミナー								●				

セミナー MAP

テーマ＼レベル	基礎	実践・応用
営業	即実践！ 新任担当者のための物流営業セミナー 営業で勝つために効くセミナー 「物流提案営業の進め方」実践セミナー	
物流コスト	たった一日でよく判る物流コスト基礎セミナー 物流コスト＆KPI管理入門セミナー	
国際	新任担当者のための国際物流基礎セミナー	
情報	物流DX推進のためのIT基礎セミナー	
輸配送		輸配送効率化実践セミナー
在庫		在庫適正化実践セミナー
SCM	『超』入門！ 世界標準のSCMセミナー サプライチェーン構造改革セミナー 需要予測の基本 『超』入門！ SCM担当者のための生産管理セミナー 『超』入門！ SCM担当者のためのロジスティクスセミナー	『超』入門！ S&OPセミナー（仮称） 梱包・包装最適化による物流コスト削減実践セミナー ～デザイン・フォー・ロジスティクス（DFL）～
改善	「問題発見」実践セミナー 「問題解決の実践」セミナー 物流現場改善の進め方 物流センターの管理・レイアウト設計改善セミナー 「しってるをしてるに!!トヨタ式物流改善の極意」セミナー	

※諸事情（新型コロナウイルスの感染状況など）により、内容・日時等を変更する場合があります。

即実践！ 新任担当者のための物流営業セミナー

営業

概　　要	● 物流営業の基本的な考え方から営業活動におけるコミュニケーションスキルについて、事例紹介やロールプレイングを交えながら、解説いたします。
対　　象	● 物流事業者、物流子会社、3PL事業者の営業部門に配属または配属予定の新入社員 ● 新任の営業担当者の方 ● 営業経験5年未満の方
会　　期	● 2023年5月
開催方法	● 集合開催（大阪）
定　　員	● 30名
参加料（税込）	① 会　員（1名につき）　38,500円 ② 会員外（1名につき）　55,000円

プログラム

1．物流営業の役割を理解する

2．顧客（荷主企業）の物流ニーズを知る

3．物流営業の基本を知る

　1）ヒヤリングー聞くべき内容は

　2）情報提供ー事例や情報の入手方法

　3）提案ー提案書の作り方

4．ロールプレイング（グループ演習）

営業で勝つために効くセミナー

営業

概　　要	● 荷主企業の物流ニーズを的確に把握し、自社の物流サービスとその優位性を理解した上で荷主企業に効果的なアプローチを行うための方法を具体的な事例を交えながらわかりやすく解説いたします。
対　　象	● 物流子会社、物流事業者の営業部門、企画部門の方
会　　期	● 2023年7月
開催方法	● オンライン
定　　員	● 30名
参加料（税込）	① 会　員（1名につき）　38,500円 ② 会員外（1名につき）　55,000円
参加特典	● 『すぐに使える提案書作成の基本フレーム』を進呈

プログラム

1. 荷主の物流ニーズの現状

2. 物流業界におけるマーケティング手法

3. 営業で勝つために準備すべき事項
   ・営業戦略編
   ・ツール編
   ・ネットワーク編

4. 勝つための提案営業の基本
   ・営業先の見つけ方（ターゲットセグメント）
   ・提案アプローチと事前準備
   ・他社と違う提案書作成のポイント
   ・プレゼンテーションの６箇条

「物流提案営業の進め方」実践セミナー

営業

概　　要	● 提案営業による新規顧客開拓の事例、提案営業に必要な手法、企画書の評価や内容の検証方法等について学びます。
対　　象	● 物流子会社、物流事業者の営業部門、企画部門の方
会　　期	● 2023年11月
開催方法	● 集合開催（大阪）
定　　員	● 30名
参加料（税込）	① 会　員（1名につき）　38,500円 ② 会員外（1名につき）　55,000円

プログラム

1. 物流提案営業の基本

2. 提案型営業の進め方 ～ステップ別解説～
   ステップ1：マーケティングフェーズ
   ステップ2：提案フェーズ
   （演習：ヒアリングシートの作成）
   ステップ3：実行フェーズ

3. 提案書作成とプレゼンテーション
   ①いい提案書の条件・提案書の種類
   ②実際の提案書による事例研究
   ③提案書作成とプレゼンテーションのポイント

4. まとめ

※諸事情（新型コロナウイルスの感染状況など）により、内容・日時等を変更する場合があります。

たった一日でよく判る物流コスト基礎セミナー

物流コスト

概　　要	● 1日で物流コスト構造から、見える化、物流KPIの設定、適切な物流コスト削減の着眼点までを判りやすく解説します。	
対　　象	● 製造業、流通業の物流部門および物流企業の管理者、スタッフの方	
会　　期	● 2023年8月	
開催方法	● オンライン	
定　　員	● 30名	
参加料（税込）	① 会　員（1名につき） ② 会員外（1名につき）	38,500円 55,000円

プログラム

1. 物流コストの基礎知識
2. 物流コスト管理の実際
3. 物流コスト算定（演習）
4. 物流コスト削減の着眼点
5. これからの物流コスト管理
6. まとめ、質疑応答

物流コスト& KPI 管理入門セミナー

物流コスト

概　　要	● 物流コストの全体像の掴み方、運行原価計算、作業原価計算の基礎を講義と演習を通じて学び、物流コストをKPIとして管理する方策を解説します。	
対　　象	● 製造業・流通業の物流部門の管理者・スタッフの方 ● 物流管理会社・物流事業者の管理者・スタッフの方	
会　　期	● 2023年9月	
開催方法	● オンライン	
定　　員	● 50名	
参加料（税込）	① 会　員（1名につき） ② 会員外（1名につき）	27,500円 38,500円

プログラム

1. 物流コスト管理とは何か
2. トータル物流コスト管理
3. 運行原価計算入門
4. 作業原価計算入門
5. 物流コストのKPI活用

新任担当者のための国際物流基礎セミナー

国際

概　　要	● 初めて国際物流に携わる方々を対象に、国際物流の基礎を体系的に学びます。	
対　　象	● 国際物流、貿易関連部門の新入社員、新任担当者の方 ● 上記部門以外で国際物流の基礎知識を身につけたい方	
会　　期	● 2024年3月	
開催方法	● オンライン	
定　　員	● 30名	
参加料（税込）	① 会　員（1名につき） ② 会員外（1名につき）	38,500円 55,000円

プログラム

＜1日目＞

1. 国際物流入門
   1）国際物流の基礎知識
   2）国際物流の機能

2. 貿易実務の基礎
   1）貿易取引の概要
   2）取引交渉から契約の流れ
   3）インコタームズ２０２０

※諸事情（新型コロナウイルスの感染状況など）により、内容・日時等を変更する場合があります。

物流 DX 推進のための IT 基礎セミナー

情報

概　　要	● WMS・TMSなどロジスティクスに関わる情報システムの基礎から、実際にシステムを導入する際のポイントや提案要求書（RFP）発行とベンダ選定手法について解説いたします。 ● これからのITトレンドとして物流DXの意義や最新事例もご説明いたします。
対　　象	● 物流情報システム部門の管理者、担当者の方
会　　期	● 2023年８月（3日間午後開催）
開催方法	● オンライン
定　　員	● 30名
参加料（税込）	① 会　員（1名につき）　66,000円 ② 会員外（1名につき）　88,000円

プログラム

1. はじめに
2. 情報システムの基礎知識
3. ロジスティクスの情報システム概略
4. 物流拠点におけるIT活用（WMS）
5. 輸配送におけるIT活用（TMS）
6. 物流QCDの見える化とKPI管理（LMS）
7. 情報システム導入を成功させるコツ
8. 提案要求書（RFP）発行とベンダ選定
9. これからのITトレンド
10. まとめ

輸配送効率化実践セミナー

輸配送

概　　要	● 輸配送業務における生産性の向上とコスト削減を推進するための業務改善ステップや組織連携のアプローチなどについて事例を交えて解説します。
対　　象	● 製造業・流通業および物流管理会社、物流事業者の輸配送・配車管理者の方
会　　期	● 2023年6月
開催方法	● オンライン
定　　員	● 50名
参加料（税込）	① 会　員（1名につき）　38,500円 ② 会員外（1名につき）　55,000円

プログラム

1. 輸配送の基本
2. 輸配送のムダを把握する
3. 輸配送コストを見える化する
4. 輸配送コストを下げる
5. 効率のよい輸配送を目指す
6. 輸配送のコストダウン成功事例

※諸事情（新型コロナウイルスの感染状況など）により、内容・日時等を変更する場合があります。

在庫適正化実践セミナー

在庫

概　　要	● 製造業や流通業等の荷主企業における在庫のあり方やその適正化に向けたポイントについて、講義と演習を交えて学びます。
対　　象	● 製造業、流通業等の荷主企業におけるＳＣＭ、ロジスティクス、物流部門の係長、担当者の方 ● 物流子会社、物流事業者の方で、荷主企業の在庫管理に関心のある方
会　　期	● 2023年11月
開催方法	● オンライン
定　　員	● 25名
参加料（税込）	① 会　員（1名につき）　38,500円 ② 会員外（1名につき）　55,000円

プログラム

1. 企業における在庫
   - ・在庫とは何か？
   - ・在庫の役割
2. 在庫適正化へのアプローチ
   - ・適正な在庫基準を設定する
   - ・基準を維持するための管理プロセス
3. グループ演習
   - ・在庫・出荷実績データ等に基づく問題点の整理と改善・改革の方向性を検討するグループ演習を実施します。

サプライチェーン構造改革セミナー

SCM

概　　要	● 需要の多様化やグローバル化が進展する中、SCMの重要性は益々高まっています。本セミナーでは、SCMの基本的な考え方からSCM改革の進め方までを事例を交えた講義を通じて学びます。
対　　象	● SCM、物流労務、生産管理に携わる方
会　　期	● 2023年12月
開催方法	● オンライン
定　　員	● 40名
参加料（税込）	① 会　員（1名につき）　38,500円 ② 会員外（1名につき）　55,000円

プログラム

1. SCM基礎
   - ・SCMとは、SCMの必要性
   - ・SCM改革のポイント
2. 在庫管理
   - ・在庫とは、在庫の区分
   - ・在庫の役割と弊害
   - ・在庫適正化の進め方
3. SCM改革
   - ・SCMの理論と戦略
   - ・S&OP

※諸事情（新型コロナウイルスの感染状況など）により、内容・日時等を変更する場合があります。

『超』入門！世界標準のSCMセミナー

SCM

概　　要	● 本セミナーは、グローバル標準の知識体系に沿った講義と演習を通じ、SCM を理解するための「観点」と「基礎知識」の習得を目指していただくものです。SCMの専門領域へと学びを深めるための「はじめの一歩」としてご活用ください。
対　　象	● 製造業・流通業のSCM部門担当者の担当者および新任マネージャーなど
会　　期	● 2023年7月（2時間×３日間）
開催方法	● オンライン
定　　員	● 25名
参加料（税込）	① 会　員（1名につき）　44,000円 ② 会員外（1名につき）　55,000円

プログラム

1．「SCMって何？」

2．企業活動におけるSCMの要素①
- ・SCMにおける「調達」の役割について
- ・SCMにおける「生産」の役割について
- ・SCMにおける「流通」の役割について
- ・自社を含むサプライチェーンを描いてみる

3．企業活動におけるSCMの要素②
- ・SCMにおける「需要情報」と「供給活動」
- ・SCMにおける「在庫」の役割・ROICについて
- ・サプライチェーンの外部環境を整理する
- ・SCMの観点から自社の課題を再整理する

『超』入門！ SCM担当者のための生産管理セミナー

SCM

概　　要	● 本セミナーは、若手SCM担当者と新任マネージャが生産管理の基礎知識を習得するとともに、世界標準のSCMの「観点」から生産現場の活動を俯瞰することで適切な「次の一手」を考えるきっかけとなることを目指すものです。
対　　象	● 製造業・流通業のSCM部門担当者の担当者および新任マネージャーなど
会　　期	● 2023年10月
開催方法	● オンライン
定　　員	● 25名
参加料（税込）	① 会　員（1名につき）　44,000円 ② 会員外（1名につき）　55,000円

プログラム

1．世界標準のSCMと生産管理

2．SCMの観点から見た生産管理の活動と意思決定

3．生産の「実行」と「管理」：工場管理とQCD

4．生産の「実行」と「管理」：継続的改善

5．「独立需要」と生産計画

6．「従属需要」と生産計画

『超』入門！ SCM担当者のためのロジスティクスセミナー

SCM

概　　要	● 本セミナーでは、SCMの新任担当者とマネージャーを対象としてグローバル・サプライチェーンにおける「ロジスティクス」の役割を「戦略（設計）」「計画」「実行」の各レベルで概説します。そして３日間の講義と演習を通じてロジスティクスの基礎知識の習得と課題設定のための観点の獲得を目指していただくことを狙いとしています。
対　　象	● 製造業・流通業のSCM部門担当者の担当者および新任マネージャーなど
会　　期	● 2023年12月
開催方法	● オンライン
定　　員	● 25名
参加料（税込）	① 会　員（1名につき）　44,000円 ② 会員外（1名につき）　55,000円

プログラム

1．世界標準のSCMとロジスティクス

2．ロジスティクスと経営課題

3．世界標準のSCMにおけるロジスティクスの「実行・管理」の役割

4．SCMの観点から在庫マネジメントの基本を学ぶ

5．SCMの観点から倉庫マネジメントの基本を学ぶ

6．世界標準のSCMにおけるロジスティクスの「戦略・計画」の役割

7．SCMの観点から輸送ネットワーク設計の基本を学ぶ

8．SCMの観点から輸送計画・オペレーションの基本を学ぶ

※諸事情（新型コロナウイルスの感染状況など）により、内容・日時等を変更する場合があります。

需要予測の基本

SCM

概　　要	商品の在庫切れや在庫余り抑制のカギを握る「需要予測」に特化したセミナー ビジネスの現場ではどのような取り組みが行われているのか、具体的なケースを例に考え、理論で補強することで、それぞれの業界で役立つ学びを得ていただきます。
対　　象	● 新任SCM担当者（需要予測・在庫計画・生産計画立案・原材料調達など） ● マーケター ● 事業計画立案担当者 ● 需要予測も行うその他の業務担当者（営業担当者など）
会　　期	● 2023年6月
開催方法	● オンライン
定　　員	● 30名
参加料（税込）	① 会　員（1名につき）　38,500円 ② 会員外（1名につき）　55,000円

プログラム

1. グローバル標準の需要予測知識
2. 海外論文研究
3. S&OPのための需要予測
4. アジャイルSCMを実現する需要予測
5. 需要予測のオペレーション診断（簡易版）
6. 需要予測診断の結果レビュー
7. 世界で使われる予測モデル
8. 新製品の需要予測とナレッジマネジメント
9. 精度ドリブンの予測業務マネジメント
10. 研究発表「需要予測でビジネス価値を生む」

『超』入門！ S&OP セミナー（仮称）

SCM

概　　要	● ①S & OPの役割と仕組み（総論） ②S & OPの役割と仕組み（各論・演習） ③S & OPプロセスの導入・継続運用に向けて検討すべき事項について基本と各部門担当者に求められるアクションについて学びます。
対　　象	● SCM担当者・マネジャー
会　　期	● 2024年1月
開催方法	● オンライン
定　　員	● 30名
参加料（税込）	① 会　員（1名につき）　38,500円 ② 会員外（1名につき）　55,000円

プログラム

1. S & OPの役割と仕組み（総論）
2. S & OPの役割と仕組み（各論・演習）
3. S & OPプロセスの導入・継続運用に向けて検討すべき事項

梱包・包装最適化による物流コスト削減実践セミナー ～デザイン・フォー・ロジスティクス（DFL）～

SCM

概　　要	● 「梱包・包装」の改善に目を向け、設計から見直しをしていただくため、物流と梱包・包装の関係からＤＦＬ推進のためのステップまで、講義と演習を踏まえて学んでいただきます。
対　　象	● 製造業の商品設計、製造、物流担当者 ● 物流事業者の営業、改善担当者 ● 新しい改善のテーマがほしい方
会　　期	● 2023年7月
開催方法	● オンライン
定　　員	● 30名
参加料（税込）	① 会　員（1名につき）　38,500円 ② 会員外（1名につき）　55,000円

プログラム

1. 物流コスト削減課題と活動ポイント
2. デザイン・フォー・ロジスティクス
3. 演習と解説（貨物包装の分析と改善）
4. デザイン・フォー・ロジスティクス推進プロジェクトの進め方

※諸事情（新型コロナウイルスの感染状況など）により、内容・日時等を変更する場合があります。

「問題発見」実践セミナー

改善

概　　要	● 物流現場改善の第一歩となる「気付き・問題点の把握」に焦点を当て、「問題発見の着眼点」「問題の抽出」について、事例と演習を交えながら解説します。
対　　象	● 製造業、物流企業（運送事業者・倉庫業者等）の物流現場改善のリーダーやリーダー候補の方
会　　期	● 2024年2月
開催方法	● オンライン
定　　員	● 30名
参加料（税込）	① 会　員（1名につき）　38,500円 ② 会員外（1名につき）　55,000円

プログラム

1. 物流現場とはどんな場所？
2. ロジスティクスの理解と物流現場の関係
3. 物流現場の現状把握
4. 問題発見能力とは何か？
5. 問題発見の着眼点
6. 実例による改善演習

「問題解決の実践」セミナー

改善

概　　要	● 様々な「問題」に対して、的確な対策を立案し、継続的効果につながる問題解決の進め方を解説と演習を通して学びます。
対　　象	● 製造業・流通業や物流企業にて、物流・ロジスティクスの業務管理、現場管理、改善活動等に携わる方
会　　期	● 2023年7月・8月（計2日間）
開催方法	● オンライン
定　　員	● 15名
参加料（税込）	① 会　員（1名につき）　55,000円 ② 会員外（1名につき）　88,000円

プログラム

1．科学的な仕事の進め方
2．仕事における問題解決の重要性
3．適切な対策立案と継続的効果につながる進め方
4．科学的・論理的に問題を解決する8ステップ
　・個人演習１～７の実施
5．まとめ：QC的考え方と問題解決ステップの関係

物流現場改善の進め方

改善

概　　要	● 物流現場における初歩的な管理項目や改善基礎知識、分析手法を学びます。
対　　象	● 新任の物流部門・物流センター管理の実務担当者の方
会　　期	● 2023年6月
開催方法	● 集合開催（大阪）
定　　員	● 30名
参加料（税込）	① 会　員（1名につき）　38,500円 ② 会員外（1名につき）　55,000円

プログラム

1. 物流現場管理の基礎
2. 問題・課題を正しく捉える
3. 問題点を明らかにする分析手法（演習）
4. 物流現場の改善手法
5. 物流品質の考え方
6. 物流業務改善の体系的な進め方

※諸事情（新型コロナウイルスの感染状況など）により、内容・日時等を変更する場合があります。

物流センターの管理・レイアウト設計改善セミナー

改善

概　　要	● 作業効率、生産性、物流品質の高い物流センターの作り方、物流センター管理のツボ、業務改善のための実践的なノウハウを学びます。
対　　象	● 製造業、流通業、物流業のロジスティクス、物流部門の企画担当者、拠点設計、拠点業務の改善、運営担当者の方
会　　期	● 2024年1月
開催方法	● オンライン
定　　員	● 30名
参加料（税込）	① 会　員（1名につき）　38,500円 ② 会員外（1名につき）　55,000円

プログラム

1. はじめに
2. 適正な物流センター数の算出方法と立地選定の方法
3. 物流センター規模の決定
4. 物流センターレイアウト設計
5. 物流センター業務管理のツボ

「しってるをしてるに!! トヨタ式物流改善の極意」セミナー

改善

概　　要	● トヨタ式物流改善手法について解説します。
対　　象	● 製造業、流通業および物流管理会社、3PL、物流企業の管理者および改善推進リーダー担当の方
会　　期	● 2023年5月
開催方法	● 集合開催（大阪）
定　　員	● 30名
参加料（税込）	① 会　員（1名につき）　38,500円 ② 会員外（1名につき）　55,000円

プログラム

1. カイゼンとは
2. 物流とロジスティクス
3. TPS（TOYOTA Production System）
4. トヨタ改善の口ぐせ
5. 物流人財の育成
6. KPI（重要業績管理指標）

※諸事情（新型コロナウイルスの感染状況など）により、内容・日時等を変更する場合があります。

A　物流教育 DVD【正しい荷扱い作業とは】

- プロローグ
- 手扱い（ハンドリング）
- フォークリフト
- 正しい荷扱いを助ける表示（ケアマーク）
- 入庫・保管・出庫作業
- エピローグ

◆日本語版／英語版ナレーション付
◆収録時間　約25分
◆価格（税込・送料別）
1本　11,000円

B　物流教育 DVD【正しい現品管理とは】

- プロローグ
- 現品管理が悪いと
- 現品管理のまずさの要因
- 現品（物）の扱いの改善
- ミスのない現品取り扱いのアイデア
- 事務処理の改善
- 例外処理のルール化
- 現品棚卸の正確性向上
- 教育訓練と評価
- エピローグ

◆日本語版／英語版ナレーション付
◆収録時間　約25分
◆価格（税込・送料別）
1本　11,000円

DVDはJILSホームページからお申し込みいただけます。

トップ ➡ 調査・統計 機関誌・出版物 ➡ 書籍・教育DVD

- 英語ナレーションもついていますので、
  海外現地法人での人材教育などにもご活用いただけます。

※リージョンフリーですので、DVDプレーヤの地域設定に関わらず利用できます。
※DVDをテレビに出力する場合には、NTSC方式（日・米等）のテレビをご利用ください。
　なお、パソコンで出力する場合には信号方式による影響はありません。

【割引セット販売】
セットでお買い求めいただくと、割引価格になります（割引は同時にＦＡＸ又はＷＥＢでお申込みの場合のみに適用となります）。

A＋Bセット	16,500円（税込・送料別）

社内教育

JILSでは公開制の各種講座やセミナーを開催するとともに、各企業オリジナルのオーダーメイドの社内教育を実施しております。

＜社内教育のメリット＞
- 完全オーダーメイドの教育プログラム･教材をご提供いたしますので､貴社の教育ニーズ･レベルに合わせた内容となります。
- 日数、開催日、会場など、貴社のご都合に合わせた調整が可能です。 ＊オンラインでの開催も可能です。
- 貴社に在籍する資格取得者を活用した、各種講座と連携した中・長期的な人材育成についても、ご相談ください。

＜社内教育の流れ＞

1.お問い合わせ・ご相談	貴社の人材育成に関する悩み事、人材育成ニーズ等について、お聞かせください。
2.教育プログラムの提示	貴社のニーズに応じた教育プログラムをご提示いたします。 ※貴社の関係者がご納得いただくまで、内容の調整をいたします。
3.テキストの作成	貴社向け教育プログラムに対応したテキストを作成いたします。
4.教育プログラムの実施	専門講師による講義を実施いたします。
5.フォローアップの実施	実施プログラムの評価、次回への提案等をいたします。

＜社内教育メニュー＞
以下に示すのは一例ですので、詳細はお問い合わせください。

分　類	コ　ー　ス　名　（例）
階層別教育コース	上級管理養成・監督者レベルアップコース／評価者（1次・2次等）研修／物流企画管理者養成コース／新入社員基礎コース　等
テーマ別教育コース （1）主に荷主系企業対象	SCM・物流管理基礎／需要予測基礎／物流コスト管理強化／3PL管理･連携力強化／グローバルビット管理／DX推進力養成基礎　等
テーマ別教育コース （2）主に物流・サービス系企業対象	SCM・物流管理基礎／提案営業（基礎・実践）／荷主業種別事業戦略／物流センター長育成／OJTの評価と再構築

コンサルティング

- SCM、物流に精通したコンサルタントとの協業により、SCM、物流に関する戦略立案・デジタル化、BCM･BCP策定、物流企業選定や3PL・輸配送・倉庫等の物流企業との関係再構築など、マネジメント力と収益力、リスク管理力を向上し、貴社の競争力強化のための支援をいたします。
  戦略的人財育成に向けた組織、人事・総務部門の再構築（対象：物流業、物流子会社）

通信教育

- 詳細につきましては、各実施機関のホームページをご覧ください。

実施機関	コース名	対　象　者	期間
学校法人 産業能率大学	物流の仕事がわかる	初めて物流の仕事に携わる方、物流の基本を再確認・強化したい中堅クラスの担当の方、物流の知識を必要とする他業界・他部門の担当者の方	2ヵ月
	物流技術を極める	物流管理部門の担当者、物流業の中堅～管理・監督者、その他企業の管理、監督者	2ヵ月
	ロジスティクス・マネジメントを極める	物流業をはじめとする企業の管理・監督者、経営企画、システム構築などに携わる方	2ヵ月

人材育成のための支援ツール（手引書・診断ツール）

JILSのホームページより各種支援ツールをご活用ください。

物流現場改善推進のための手引書

※「英語版」「ベトナム語版」「タイ語版」もJILSホームページに掲載しております。

グリーンロジスティクスガイド

グリーン物流ってなんだろう？

キャリアアップ診断・チェックリスト

・物流現場改善リーダーキャリアアップ診断　・問題発見チェックリスト
・現場活性サイクルチェックリスト

物流現場改善事例集

ロジスティクスKPI活用の手引き

サプライチェーンマネジメント推進に向けた課題2022

「SDGs×ロジスティクス」入門ガイド
～ ロジスティクスから読み解くSDGsへの誘い ～

企業事例から学ぶ

先進事例から学ぶ

＊ロジスティクス全国大会、ロジスティクス関西大会、中部ロジスティクス講演会、九州ロジスティクス講演会は、有資格者優待の対象です。

ロジスティクス全国大会　2023

開催地　東京

開催時期	● 2023年9月 （予定、変更となる可能性有り）
開催方法	● 東京（予定）
参加料 （税込、1日あたり） （予定、変更となる可能性有り）	● ①27,500円（会員）　1名あたり ②44,000円（会員外）　1名あたり ③16,500円（有資格者優待）1名あたり

今日のロジスティクスを取り巻く環境変化に対応し、持続可能な発展のために何をすべきか、優れた先進事例の発表等を通じて課題の解決に向けた方向性の共有を図ります。JILSの年次大会として、活発な交流が行われます。

ロジスティクス関西大会　2024

開催地　大阪／オンライン

開催時期	● 2024年2月（2日間）
開催方法	● 大阪（オンライン併用予定）
参加料 （税込、1日あたり） （予定、変更となる可能性有り）	● ①22,000円（会員）　1名あたり ②34,100円（会員外）　1名あたり ③19,800円（有資格者優待）1名あたり

社会情勢が大きく変動するなか、経営戦略におけるロジスティクス高度化の重要性を啓発し、最新の革新動向についての情報を提供するとともに、社会システムとしてのロジスティクスのあり方を発信します。

中部ロジスティクス講演会　2023

開催地　名古屋／オンライン

開催時期	● 2023年9月
開催方法	● 名古屋（オンライン併用予定）
参加料 （税込）	● ①　7,700円（会員）　1名あたり ②15,400円（会員外）　1名あたり ③　5,500円（有資格者優待）1名あたり

中部地域のロジスティクス関係者が一堂に集い、講演や懇親会を通じて、ロジスティクスの視点からの経営戦略や最新の革新動向に関する活発な情報交流を行います。

九州ロジスティクス講演会　2023

開催地　福岡／オンライン

開催時期	● 2023年9月
開催方法	● 福岡（オンライン併用予定）
参加料 （税込）	● ①　8,800円（会員）　1名あたり ②17,600円（会員外）　1名あたり ③　5,500円（有資格者優待）1名あたり

九州・山口地域のSCM・ロジスティクス関係者が一堂に集い、ロジスティクスの視点から経営戦略や最新の動向に関する活発な情報交換を行います。

テーマ別研究会

開催地　東京／大阪／名古屋／福岡／オンライン

開催時期	● 2023年5月～2024年3月
開催場所	● 東京、大阪、名古屋、福岡、オンライン
参加料 （税込）	● ①無料～16,500円（会員）　1回あたり ②無料～33,000円（会員外）1回あたり ＊会合によって異なりますので、詳細は各会合の案内にてご確認ください。

最新の行政動向、物流コスト調査等の研究成果や優れた企業事例等を紹介します。ロジスティクス・SCMの動向を把握し、課題解決のヒントを見い出します。

ロジスティクスシステム研究会（登録制）

開催地　東京／オンライン

開催時期	● 2023年5月～2024年3月　（全11回）
開催場所	● 東京（オンライン併用予定）
参加料 （税込）	● ① 121,000円（会員）　1名あたり ② 264,000円（会員外）　1名あたり

SCM＆物流に関わる様々な切り口（テーマ）から、製造業、流通業、物流子会社、3PL／物流業、サービス業等の研究会メンバーが自身の取組（事例）をベースに、問題・課題を提示し、メンバー同士が「三現主義」に基づくディスカッションを通して、解決のヒントを見出す機会を提供します。

食品ロジスティクス研究会（登録制）

開催地 東京／オンライン

開催時期	● 2023年5月～2024年3月　（全10回）
開催場所	● 東京（オンライン併用予定）
参加料（税込）	● ① 110,000円（会員）　1名あたり ② 252,000円（会員外）　1名あたり

加工食品メーカーのロジスティクス責任者による情報交流を目的とし、メンバー相互の事例発表、物流センター見学などを行います。

国際物流強靭化推進ワーキング（登録制）

開催地 東京／オンライン

開催時期	● 2023年5月～2024年3月　（全11回）
開催場所	● 東京（オンライン併用予定）
参加料（税込）	● ① 製造業 ・121,000円（会　員）1名あたり ・363,000円（会員外）1名あたり ② ソリューション企業（コンサルティング、システムベンダー等） ・242,000円（会　員）1名あたり ・372,000円（会員外）1名あたり

荷主企業として事業の持続性と競争力を高めるために、国際物流の強靭化に向けて、関係者間で取組み等の共有および協調・連携すべき事項等に関する検討、検証、実証を行います。その結果を普及することにより、我が国の持続可能な国際競争力の強化を物流、ロジスティクスの側面から貢献することを目的とした活動を推進します。

～S&OPで経営に貢献する～需要予測研究会（登録制）

開催地 東京／オンライン

開催時期	● 2024年1月～3月（全3回）
開催場所	● 東京（オンライン併用予定）
参加料（税込）	● ① 49,500円（会員）　1名あたり ② 99,000円（会員外）　1名あたり

本研究会では、S&OPを効果的に推進するため、起点となる需要予測の精度を向上させる「6つの軸」*をフレームワークに、参加企業各社の現状を把握したうえで、先進的な事例発表や直近の課題の共有および示唆の提供、人的ネットワークの形成を支援いたします。

＊1)予測データ整備　2)予測モデル　3)予測システム　4)予測マネジメント　5)予測チーム　6)予測スキル

物流企業のHRM推進研究会（登録制）

開催地 東京／オンライン

開催時期	● 2023年6月～2024年3月（全9回）
開催場所	● 東京（オンライン併用予定）
参加料（税込）	● ① 110,000円（会員）　1名あたり ② 220,000円（会員外）　1名あたり

物流事業者、物流子会社の総務・人事担当者による登録制の研究会です。人材を経営資源と捉え、戦略的に獲得（採用）、開発、活用し、経営戦略の実現と企業価値の向上に資するHRMの推進を目的とし、メンバー相互の事例研究、課題共有、情報交換を通じてロジスティクス・物流分野の課題解決、人的ネットワークの形成を支援します。

物流子会社懇話会（登録制）

開催地 東京／オンライン

開催時期	● 2023年6月～2024年3月　（全9回）
開催場所	● 東京（オンライン併用予定）
参加料（税込）	● ① 253,000円（会員）　1社(2名登録可) ② 396,000円（会員外）1社(2名登録可)

物流子会社、物流管理会社のトップマネジメントの方々が集い、自社、業界の経営全般に関する様々な問題や課題をとりあげ、その対策や解決方法についてメンバー相互の意見交換と積極的な情報交流、現地視察や外部講師の招聘等を行い、物流子会社、物流管理会社のあるべき方向を探っていきます。

物流改善研究会（登録制）

開催地 名古屋

開催時期	● 2023年10月～2024年3月（全5回）
開催場所	● 名古屋
参加料（税込）	● ① 49,500円（会員）　1名あたり ② 82,500円（会員外）　1名あたり

物流現場の視察におけるポイントに関する解説、現地での視察と改善提案、メンバーとの意見交換を行い、物流改善の重要性をあらためてご認識いただきつつ、取組み情報を メンバー間で共有することで各社の物流管理レベルの向上に役立てていただきます。

関西ロジスティクス研究会（登録制）

開催地 大阪／オンライン

開催時期	● 2023年6月～2024年3月（全９回）
開催場所	● 大阪（オンライン併用予定）
参加料（税込）	● ① 69,300円（会員）　1名あたり ② 99,000円（会員外）　1名あたり

最新ロジスティクス事情の収集や潮流、最新情報等の収集、現場見学、他業界・他企業との交流を目的とし、活発な討議により情報の共有化を促進します。

九州ロジスティクス活性化研究会（登録制）

開催地 福岡／オンライン

開催時期	● 2023年６月～2024年3月(全7回)
開催場所	● 福岡（オンライン併用予定）
参加料（税込）	● ①　66,000円（会員）　1名あたり ② 110,000円（会員外）　1名あたり

九州・山口地域の企業による、事例交流や専門家による最新情報の解説などを通して、人脈形成と相互啓発を促進し、参加メンバーの課題解決を支援します。

物流改善事例から学ぶ

＊全日本物流改善事例大会、関西物流改善事例発表会、九州物流改善事例発表会は、有資格者優待の対象です。

全日本物流改善事例大会　2023

開催地 東京／オンライン

開催時期	2023年5月16日（火）・17日（水）
開催方法	東京（オンライン併用予定）
参加料（税込）	①37,400円（会員） ②61,600円（会員外） ③27,500円（有資格者優待）

物流の現場において合理化の成果をあげている優れた改善事例をご発表いただき、実務担当者が各々の現場の課題解決の手がかりやノウハウを共有し合うことで、視野を広げ、今後の物流改善活動の推進に役立つことをねらいとしています。

関西物流改善事例発表会　2023

開催地 大阪／オンライン

開催時期	2023年9月（1日）
開催場所	大阪（オンライン併用予定）
参加料（税込）	①16,500円（会員） ②25,300円（会員外） ③11,000円（有資格者優待）

主に関西地域の物流現場における改善事例をご発表いただき、その手法やノウハウを共有することで、さらなる物流合理化活動の推進に役立つことをねらいとしています。

中部物流改善事例発表会　2024

開催地 名古屋／オンライン

開催時期	2024年2月（1日）
開催場所	名古屋（オンライン併用予定）
参加料（税込）	①　8,800円（会員） ②13,200円（会員外） ③　6,600円（有資格者優待）

主に中部地域の物流現場における改善事例をご発表いただき、その手法やノウハウを共有することで、さらなる物流合理化活動の推進に役立つことをねらいとしています。

九州物流改善事例発表会　2023

開催地 福岡／オンライン

開催時期	2023年11月
開催場所	福岡（オンライン併用予定）
参加料（税込）	①　7,700円（会員） ②11,000円（会員外） ③　5,500円（有資格者優待）

主に九州・山口地域の物流現場における改善事例をご発表いただき、その手法やノウハウを共有することで、さらなる物流合理化活動の推進に役立つことをねらいとしています。

物流改善賞※

最優秀物流改善賞

ＮＸ・ＮＰロジスティクス（株）
IEを活用した“ONE TEAM”による全体最適な庫内運営の実践
～更なるユニットロードのSHINKAに挑戦～

花王（株）
withコロナ：在宅勤務を中心とした働き方改革およびBCP対応
～物流事務作業の標準化とデジタル化によるリモート化及び生産性の向上～

本田技研工業（株）
新ケースレス輸送治具導入による二輪完成車輸送の標準化

全日本物流改善事例大会にて発表された改善事例の中から、特に優れた内容と成果が認められた改善事例に対して「最優秀物流改善賞」、「優秀物流改善賞」を贈り表彰しています。

※2022年大会より、「物流合理化賞」は「最優秀物流改善賞」に、「物流合理化努力賞」は「優秀物流改善賞」に変更になりました。

物流施設を見学して学ぶ

＊物流施設の見学を通して、最新の物流技術、物流現場の運営方法等を研究します。
＊2023年度は、物流施設の見学受け入れ状況等に応じて、企画・実施します。JILSホームページ等にてご案内します。

現場研究会

開催時期	● 2023年4月～2024年3月
開催場所	● 東京、大阪、名古屋、福岡
参加料（税込）	● ① 5,500円～16,500円（会員） 1回あたり ②11,000円～33,000円（会員外） 1回あたり ＊会合によって異なりますので、詳細は各会合の案内にてご確認ください。

開催地 東京／大阪／名古屋／福岡

先端設備・技術や巧みな運用で効率を上げている物流施設を見学するとともに、訪問先担当者との情報交流をはかります。

最新の調査結果より学ぶ

JILSは、多元化するロジスティクスの諸問題について、調査分析・研究開発を行うとともに、経営支援活動やデータベースの構築をとおして、的確な情報発信を行い、あわせて、時代をリードする提言の実施や問題解決のグランドデザインを提供すること等を目標にしています。

【主要調査】

物流コスト調査
物流コストのデータ、算定方法、コスト適正化策実施状況

物流システム機器生産出荷統計
物流システム機器（マテハン機器）の出荷金額、出荷数量等の統計

ロジスティクスKPI調査
ロジスティクスの標準的な評価指標体系、ベンチマーク

公益社団法人 日本ロジスティクスシステム協会 入会のご案内

公益社団法人日本ロジスティクスシステム協会（JILS）はロジスティクスシステムの高度化と普及推進を使命とし、あらゆる業種からの945社（2022年11月1日現在）の会員により組織・運営されております。会員には様々な特典が用意されております。是非この機会にご入会いただき、貴社のロジスティクス高度化のためにご活用ください。

会員特典

- 機関誌「ロジスティクスシステム」の無料配布（年４回／１口３冊）
- 会員ライブラリ（機関誌バックナンバー、統計・調査年報）の利用
- 物流現場改善事例集の利用
- 物流改善賞受賞事例集の配布
- 各地新春交歓会、総会など交流の場への参加
- 本会主催の展示会の入場券無料配布
- 本会主催の展示会の出展料優遇
- 本会主催の講座・セミナー・講演会・研究会・イベントの参加料割引

・入会は随時受け付けております。当協会の趣旨に賛同する法人であれば所定の手続きを経て、入会いただけます。
・入会金：1万円（初年度のみ） ・年会費：12万円（1口につき） ＊年度途中のご入会の場合は、月割計算いたします。

オンライン事業へのご参加にあたり

日本ロジスティクスシステム協会（以下「主催者」という）が定める「JILSオンライン研修受講にあたってご了承いただきたいこと」と以下の事項に同意のうえお申し込みください。

- Zoomクライアントが使用できない場合はご参加いただけません。開催前に接続確認のご案内をいたします。
- 参加者に起因する事由により通信が中断した場合は、主催者は責任を負わないものとします。
- オンライン事業の録画、録音、撮影は禁止します。
- 参加者により運営を妨げるおそれのある行為がある場合、対象者の参加を中止させることがあります。

＜Zoomクライアントについて＞

- オンライン研修はZoomを利用して実施します。ミーティング用Zoomクライアントをインストールのうえ、以下のZoom接続テストURLにアクセスいただくと接続の確認をすることができます。
  Zoom接続テストURL　https://zoom.us/test

JILS　オンライン研修受講にあたってご了承いただきたいこと

公益社団法人日本ロジスティクスシステム協会（以下、JILSとします）が主催するオンライン研修へのご参加にあたり、以下をご了承の上、お申込みいただけますようお願いいたします。

1．オンライン研修の運営について

1）参加者、講師およびJILSは、事前にお知らせした目的に沿い、三者が協力して研修を行います。また、各種法令に沿い、公序良俗に反しない研修の実施にご協力いただきます。
2）講師およびJILSは、参加者に発言や意思表示などをお願いすることがあります。研修の目的に合わない発言、資料の提示などは、講師およびJILSが制限をすることがあります。
3）参加者は、お申込みをいただいた方1名に限り、1つの機器でご参加いただくことができます。
4）参加者は、研修にて提供された内容・資料等の全てにつき、参加者本人の受講と復習のために限り利用していただけます。参加者以外の方への提供はできません。
5）参加者には、ネットワーク、情報機器その他オンライン研修参加のために必要な費用を負担していただきます。
6）参加者、講師およびJILSは、オンライン研修に利用するアプリケーションについて、その時点での最新バージョンを利用します。

2．トラブルの防止について

1）参加者は、オンライン研修への参加に関する情報を、他者にお知らせしてはいけません。
2）講師およびJILSは、理由のいかんをとわず、参加者に対する、参加料の返金、オンライン研修に関連した損害および逸失利益などに対する賠償は、一切行いません。
3）公衆衛生上その他の事由により、JILSは、お断りなくオンライン研修の開催を中断・中止・延期することがあります。
4）講師およびJILSは、参加者間ならびに参加者・第三者間のトラブルについて、責任を負いません。

3．個人情報の取扱い等

1）講師およびJILSは、参加者の復習のため、また、講師およびJILSの記録のために、録音・録画をする場合があります。
2）参加者の個人情報のうち、氏名、所属、メールアドレスについては、研修の効果をあげるために、講師およびJILSが、研修時に利用することがあります。
3）JILSは、法令その他の規範を遵守し、プライバシーポリシーに基づき、個人情報の保護に努めます。

以上

ご参考：JILSプライバシーポリシー　https://www1.logistics.or.jp/privacy.html

※諸事情により、「JILS オンライン研修受講にあたってご了承いただきたいこと」の内容等を変更する場合があります。

（2022年11月現在。本ページの内容は、予告なく適宜、見直しを実施します。お申し込み時点での最新版を適用いたします。最新版は、JILSホームページにてご確認ください。）
JILSホームページ　https://www1.logistics.or.jp/

セミナー・講座・講演会等集合型事業開催における新型コロナウイルス感染リスクの低減対策について

公益社団法人日本ロジスティクスシステム協会（以下、JILS）では、集合型事業の開催にあたり、厚生労働省の「新型コロナウイルス感染症対策の基本的対処方針」等に基づき、下記による感染リスクの低減対策を徹底します。

なお、本対策については、行政機関等の要請、その他の事由により、内容を変更することがあります。

記

1．会場（JILS会議室および外部会場）における対策

1）各会場における適切な収容人数を設定、来場者間の適切な距離を確保した座席配置等を行います。
なお、外部会場を使用する際は、会場担当者と協議のうえ、感染リスク低減対策を徹底します。
（1）レイアウト…スクール形式（1机2名掛けまで）、シアター形式および島形式
（机のサイズは最低150cm×60cmを目安としています）
（2）参加者間の距離…左右・前後に適切な距離を確保
（左右・前後最低100cm以上の距離を目安としています）
（3）講師と参加者間の距離…左右・前後に適切な距離を確保
（左右・前後最低200cmを目安としています）

2）可能な限りドア・窓を開放し、会場内の換気に努めます。

3）消毒液や検温器を会場入り口に設置し、入退場時には手指衛生の消毒や検温およびマスク着用を徹底します。

4）手が頻繁に触れる部分であるドアノブ、机、椅子、演台、マイク、PCおよびマウスなどの付帯設備、各種スイッチ等を、開催前後にアルコール等により消毒します。

5）グループワーク等対面での会話がある場合は、左右・前後に適切な距離を確保した座席配置とします。

2．来場者（参加者と講師・講演者等）へのお願い

1）開催当日、来場前に必ず体温測定（検温）をしていただき、37.5度以上の発熱、咳、全身倦怠感等の症状がある場合は、ご来場をお控えいただきます。
会場への入場時に参加者の検温を行い、37.5度以上の方はご参加をお断りします。

2）会場ではマスクを着用していただきます。正当な事由なくマスクを着用されない場合は、ご参加をお断りします。ただし、何らかの障害や持病により、マスクを着けたくても着けられない方に関しては別席を設けるなど配慮いたします。

3）手洗い、マスク着用を含む咳エチケット、フィジカル・ディスタンシング（身体的距離の確保）、間近での会話を避ける等へのご協力をお願いします。

4）体調不良であることが見受けられた方には、事務局担当者からお声がけの上、状況によってはご退室いただく場合があります。また、体調がすぐれない方はお近くの事務局担当者までお声がけください。

5）来場者（参加者と講師・講演者等）または事務局担当者に感染が確認された場合は、事務局よりご来場の皆様に速やかにお知らせします。併せて、所轄保健所等の公的機関に対し、感染者情報を事務局より提供します。

6）来場者同士の接触を低減するため、会場での名刺交換等は最小限とするようご協力をお願いします。電子名刺交換アプリ等のご利用をご検討ください。

3．事務局の対応

1）事務局担当者は、当日、体温測定（検温）や体調確認を行い、発熱、咳、全身倦怠感等の症状がないことを確認のうえ、運営します。

2）開催当日、事務局担当者はマスクやフェイスシールド等を着用し、来場者との適切な距離を確保します。

※上記低減対策は厚生労働省のホームページ「新型コロナウイルス感染症について」を
（https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000164708_00001.html）
参考にしています。また、内閣官房ホームページに掲載されている業種別ガイドラインの以下の団体・機関のガイドラインの内容も参考にしています。

・一般社団法人日本展示会協会
（https://www.nittenkyo.ne.jp/covid-19/188）
・特定非営利活動法人全国検定振興機構
（https://www.zenken.or.jp/evaluation/1801.html）

※これらの対策を行っても現時点での新型コロナウイルスへの感染リスクをゼロにすることは困難です。参加に際しては感染リスクがあることをご承諾いただいたうえでのお申込みをお願いします。

以上

（2022年11月現在。本ページの内容は、予告なく適宜、見直しを実施します。お申し込み時点での最新版を適用いたします。最新版は、JILSホームページにてご確認ください。）
JILSホームページ　https://www1.logistics.or.jp/

ビジネス・キャリア検定試験・ロジスティクス分野（ロジ検定）

https://www.javada.or.jp/jigyou/gino/business/logi.html（「ビジキャリ」で検索）

【ビジネス・キャリア検定試験とは？】

- 中央職業能力開発協会（JAVADA）が、厚生労働省が定めた職業能力評価基準に準拠した「職務を遂行する上で必要となる専門知識の習得と実務能力の評価を行うこと」を目的として実施している試験です。「人事・人材開発・労務管理」、「経理・財務管理」、「営業・マーケティング」、「生産管理」、「企業法務・総務」、「ロジスティクス」、「経営情報システム」、「経営戦略」の８分野について、１級からBASIC級まで設定されています。※一部未実施の分野があります。
- 「ロジスティクスについては、「１級ロジスティクス」、「２・３級ロジスティクス管理」、「２・３級ロジスティクス・オペレーション」「ロジスティクスBASIC級」が実施されており、「公的資格試験」という特徴と、多くの社員に共通的な専門知識を習得させることができることから、多くの業種業態の経営者層から物流・ロジスティクスに注目が集まる中、受験者が毎年増加しています。

【試験体系】

	ビジネス・キャリア検定試験（ロジスティクス分野）	JILS資格認定講座・コース	
		資格認定講座	講座・コース
役員・経営幹部・トップマネジメント		ロジスティクス経営士資格認定講座	
部門長・ディレクター	1級ロジスティクス		ストラテジックSCMコース
課長・マネージャー	２級ロジスティクス管理 / ２級ロジスティクス・オペレーション	物流技術管理士資格認定講座 / 物流現場改善士資格認定講座 / 国際物流管理士資格認定講座	
係長・リーダー	３級ロジスティクス管理 / ３級ロジスティクス・オペレーション	物流技術管理士補資格認定コース	ロジスティクス基礎講座
スタッフ			
学生等	ロジスティクスBASIC級		

ロジスティクス管理の試験範囲（概要）
「物流の概念と物流管理」
「在庫管理」
「物流システム管理」
「物流コスト管理」
「物流情報システム」

ロジスティクス・オペレーションの試験範囲（概要）
「包装・荷役・MH・保管」
「輸配送システム」
「国際輸送」
「物流センター計画」
「物流センターの管理と運営」

【試験概要】

※日程等、詳細は中央職業能力開発協会にご確認ください。

【ビジネス・キャリア検定試験の活用法（例）】

1）自己啓発として、担当職務に必要な専門知識の向上とスキル・アップに活用
2）教育研修として、社内で使用される専門知識の共通化と知識レベルの底上げに活用
3）客観的な能力評価基準として、試験結果に基づく従業員の昇進・昇格要件に活用
4）標準テキストをJILSの資格認定講座の予習用テキストとして活用
- ロジ検定では出題範囲に基づく「標準テキスト」が発刊されています。各章ごとのねらい、各節ごとの学習のポイント、学習内容の全体像や要点がわかりやすく解説されています。JILSの資格認定講座の受講前の予習用のテキストとしてお薦めします。

5）SCMの実現に向けて
- 荷主企業の物流・ロジスティクス部門がSCM改革を推進するためには、自社内の他部門（経営企画、調達、生産、営業、マーケティング、販売等）の与件、制約条件を理解しながら組織全体を鳥瞰し、全体最適の視点で戦略的なSCMプランを描き、他部門に対して提案し、交渉し、連携できる体制を構築することが求められます。そのため、「経営戦略」「生産管理」「経営情報システム」「営業・マーケティング」等の「ロジスティクス」分野以外の専門知識を習得していることが成功のポイントになります。同時に、他部門が「ロジスティクス」に関する基礎的な専門知識を習得していることも必要です。それぞれの分野の基礎的な専門知識の習得を目指す際に検定試験をご活用ください。

【専門知識を習得したら、応用力を身につけよう！】

- 中央職業能力開発協会が実施するビジネスキャリア検定「ロジスティクス管理」または「ロジスティクス・オペレーション」の2級もしくは3級の合格者かつ、企業等での実務経験を有する方が、実務での応用力を身につけるために、ＪＩＬＳの物流技術管理士補資格認定コース（旧 物流技術管理士補スクーリング）を受講できるようになりました。詳しくは、「物流技術管理士補資格認定コース」をご覧ください。

お問い合わせ・資料請求

本紙に記載の内容（受講、参加、社内教育（オーダーメイド教育）、コンサルティング、入会等）に関しては、下記まで、お気軽にお問い合わせください。

【お問い合わせ先】　公益社団法人日本ロジスティクスシステム協会（JILS）
在宅勤務中心のため、お問い合わせはe-mailにてお願いします。

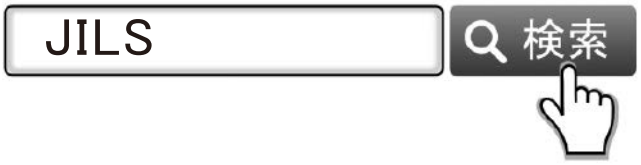
本　　部	〒105-0022 東京都港区海岸1-15-1　スズエベイディアム3F ＴＥＬ 03-3436-3191　　ＦＡＸ 03-3436-3190 担当：業務管理部（shien@logistics.or.jp）
関西支部	〒530-0001 大阪府大阪市北区梅田3-4-5　毎日新聞ビル11F ＴＥＬ 06-4797-2070　　ＦＡＸ 06-4797-2071 担当：大西（kansai@logistics.or.jp） ※関西支部事務所は2022年3月に上記に移転しました。
中部支部	〒460-0008 愛知県名古屋市中区栄1-22-16　ミナミ栄ビル407号 ＴＥＬ 052-228-2225　　ＦＡＸ 03-3436-3190（本部共通） 担当：大川（chubu@logistics.or.jp）

○各種催しに関する開催案内及びパンフレットの送付について

各種催しに関するパンフレット（日程、カリキュラム、講師等を明記しています）を順次作成、発行予定です。（おおよそ会期の2か月前頃）

パンフレットが完成次第、ご案内メール及び（ご希望の方には、）紙のパンフレットを送付しますので、上記のほか、JILSホームページの資料請求フォームより、参加、受講を検討している各種催し名やテーマを記載のうえ、お問い合わせください。

JILSホームページ　https://www1.logistics.or.jp/



個人情報のお取扱いについて

公益社団法人日本ロジスティクスシステム協会（JILS）では、個人情報の保護に努めております。
詳細は、JILSプライバシーポリシー（https://www1.logistics.or.jp/privacy.html）をご覧ください。

公益社団法人日本ロジスティクスシステム協会（https://www1.logistics.or.jp/）

公益社団法人
日本ロジスティクス システム協会
JAPAN INSTITUTE OF LOGISTICS SYSTEMS
https://www1.logistics.or.jp/